

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	夜久野町生涯学習センター事業										事業コード	630234			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施策名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	01 社会教育総務費		会計	01 一般会計		決算附属資料	248	頁
計画期間	開始年度	平成17年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名					R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	福知山市夜久野町生涯学習センター条例、夜久野町生涯学習センター条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	夜久野ふれあいプラザのうち、生涯学習センター機能の部分について、安心安全かつ快適な利用環境を維持できるように管理運営を行い、生涯を通じた学びの場づくりの提供を行う。					
対象者	夜久野町生涯学習センター利用者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.2
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	11,806		12,070		11,860		12,431					
	② 補正予算	0		0		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		11,806		12,070		11,860		12,431					
予算財源内訳	① 一般財源	10,841		11,140		9,930		11,939					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	0		0		1,000		0					
	⑤ その他特財	965		930		930		492					
決算情報	① 流充用額	8		△ 502									
	② 配当予算	11,814		11,568									
	③ 執行額	11,542		11,506									
	④ 執行率	97.7%		99.5%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.42	/	0.00	0.22	/	0.00			/			
	② 概算人件費	3,360		1,760									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		14,902		13,266									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	夜久野町生涯学習センター使用料		種類	教育使用料		488		決算附属資料	12		頁
			自動販売機設置貸付収入(夜久野町生涯学習センター)			財産貸付収入		38			36		
			自動販売機等電気代等(夜久野町生涯学習センター)			雑入		78			46		
						実績金額							

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	利用者数	人	7029	/	16000	10897	/	16000	13423	/	16000
			/		/		/		/		
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	359	/	359	359	/	359	359	/	359
		単位あたりコスト	27.7		32.2		32.1				
			/		/		/		/		
		単位あたりコスト									

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・市民の生涯学習の推進と、地域の活性化を図る地域拠点として活用をされている。 ・生涯学習センターは夜久野地域の集い・学び・交流の拠点であるため、その管理運営は優先度が高い。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・設備の管理委託等は長期継続契約を行いコストの削減に努めている。 ・令和4年度には、たんたんエナジーによるオンサイトPPAにて庁舎の屋根に太陽光発電を設置。費用を掛けず地産地消の電力供給を実現した。 ・今後、施設管理等の一部を民間事業者や地域協議会などに委託する方向性も考えられるが、コストなど比較検証が必要である。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・成果目標については、事業規模から経験的に期待される目標としており、十分に理にかなったものとは言えないものの、利用者は増加傾向にある。ただし、令和元年度は施設の屋根改修による利用制限(10月から1月)、令和2年度から3年度はコロナ感染拡大防止による休館があり利用者が減少していたが、令和4年度については、利用者は回復傾向である。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	○最新の設備を備えたプラザは市民の研修の場として広く活用されている。特に文化ホールは高い利便性と適切な規模(299席)で好評である。 ○市民の文化的活動の推進、集会施設として適正な利用が図れるよう、維持管理・保守管理に努めている。 ○建物の所管課(生涯学習課)が離れているため、施設に問題が生じた際、迅速な対応が難しい。		
改 善 策	○美観・木質を大切にしたい建物であるが、築年数が経過し、設備等に次々と不具合が生じており、交換修繕などで今後の維持管理経費の増加が懸念される。点検・状況確認を行い、計画的及び優先順位を見極めつつ修繕・改修工事を立案実施する。 ○支所機能に加え住民の文化・保健福祉複合機能を有しており、管理運営について生涯学習課の所管が適当であるか、関係機関と協議を行う。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	市民の生涯学習の拠点となるよう、施設の点検・状況確認を行い、計画的及び優先順位を見極めつつ修繕等の維持管理に努める。 今後の施設管理運営について関係機関と引き続き協議を行っていく。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☒ 現状維持 ☐ 廃止／休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	夜久野町生涯学習センター改修事業										事業コード	630264			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施策名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60030000 教育委員会 生涯学習課						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	01 社会教育総務費		会計	01 一般会計		決算附属資料	250	頁
計画期間	開始年度	令和3年度		終了予定年度	令和6年度		関連計画名					R5現在の状況		廃止/休止	
根拠法令等	福知山市夜久野町生涯学習センター条例、夜久野町生涯学習センター条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	生涯学習の拠点施設として、市民の創作活動・文化活動の向上発展を推進する場となるよう安心・安全な施設運営を継続して行うための施設整備を実施する。					
対象者	夜久野町生涯学習センター利用者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	1.9
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	7,000		4,500		0		9,240					
	② 補正予算	190,700		0		0		0					
	③ 繰越予算	△ 190,700		190,700		0		0					
		前年度繰越	0		190,700		0						
		次年度繰越	△ 190,700		0								
小計(①～③)		7,000		195,200		0		9,240					
予算財源内訳	① 一般財源	0		31,500		0		40					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	7,000		163,700		0		9,200					
	⑤ その他特財	0		0		0		0					
決算情報	① 流充用額	△ 1,403		21									
	② 配当予算	5,597		195,221									
	③ 執行額	4,741		141,770									
	④ 執行率	84.7%		72.6%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.20	/	0.00	0.31	/	0.00	/	/				
	② 概算人件費	1,600		2,480									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		6,341		144,250									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	夜久野町生涯学習センター改修事業(通称対策)(繰越明許費分)			種類	教育債		124,500		決算附属資料	56	頁
			夜久野町生涯学習センター改修事業(緊急防災・減災)				教育債		4,500			56	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	工事完了件数	件	0	/	0	0	/	2	2	/	2
	業務完了件数	件	/		/		1 / 1		/ -		1
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	設計業務委託数	件	0	/	0	1	/	1	1	/	1
	単位あたりコスト		0.0		4741.0		141770.0				
			/		/		/		/		
		単位あたりコスト									

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・夜久野町生涯学習センターのLED化や空調の更新は、省エネ化社会に求められるSDGsに資する事業の整備ができた。 ・生涯学習の拠点施設として、市民の創作活動・文化活動の向上発展を推進する場であり、インターネットを活用することで学習の幅が広がり、また避難所として災害時に避難者がインターネットにより防災情報を活用できる環境を提供できるための整備ができた。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・施設のLED化や空調の更新により、安心安全かつ快適な利用環境が整い、更に消費電力が抑えられるため、今後の施設としてのランニングコストは削減できるようになった。 ・Wi-Fi通信については、公民館、図書館、包括支援センター及び避難所開設時などで、必要とされるインターネット情報を複数人が活用することができるため、生涯学習のみでなく利用者の学びや交流の場として活用の幅が広がり、費用対効果がでる事業の整備ができた。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・省エネ化を図ることで今後消費電力経費の削減が期待できるようになった。 ・インターネット環境を時代ニーズや市民ニーズに添った生涯学習活動に活用することに加えて、住民福祉や住民自らのまちづくり活動等に活用することができ、効率性の高めれるようになった。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	○夜久野町生涯学習センターのLED化や空調の更新により、省エネ化社会に求められるSDGsに資することができ、更に利用者に安心安全で快適な利用環境を提供することができるようになった。 ○生涯学習講座や市民のサークル・サロンの活動、また、会議等においても市民ニーズ、時代ニーズに添った活動を進めることができる。更に災害時に避難者がインターネットを利用できる環境を整備した。		
改 善 策	○Wi-Fi環境が整ったことを周知するため、館内にWi-Fi接続方法のポスターを掲示するなど市民に広報し市民自らの学びの場やまちづくり活動等において活用を推進する。 ○生涯学習講座・教室等でWi-Fiを利用したインターネット講座等の計画を進める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☒ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	生涯学習の拠点施設として、市民の創作活動・文化活動の向上発展を推進する場となるよう安心・安全な施設運営を継続して行う。令和6年度は受電盤機器や高圧ケーブル等の交換推奨時期を迎えている受変電設備の改修を行います。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	中央公民館一般管理事業										事業コード	630101			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	252	頁
計画期間	開始年度	昭和47年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	市民・住民が、中央公民館を快適に利用できるよう、すみやかな利用受付を行い、また生涯学習情報を提供することにより、多くの市民の学習活動を推進していく。					
対象者	中央公民館及び地域公民館等利用可能対象者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)			
予算情報	① 当初予算	4,791		5,065		1,080		1,079			
	② 補正予算	0		0		0		0			
	③ 繰越予算	0		0		0		0			
	前年度繰越	0		0		0					
	次年度繰越	0		0							
小計(①～③)		4,791		5,065		1,080		1,079			
予算財源内訳	① 一般財源	1,150		1,610		0		0			
	② 国支出金	0		0		0		0			
	③ 府支出金	0		0		0		0			
	④ 地方債	0		0		0		0			
	⑤ その他特財	3,641		3,455		1,080		1,079			
決算情報	① 流充用額	△ 124		16							
	② 配当予算	4,667		5,081							
	③ 執行額	3,943		5,081							
	④ 執行率	84.5%		100.0%							
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.08	/	0.30	0.30	/	/				
	② 概算人件費	1,390		3,150							
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		5,333		8,231							
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	自動販売機設置貸付収入(地域公民館・市民交流プラザ)		種類	財産貸付収入		1,379		36	頁
			中央公民館使用料			教育使用料		1,296			
			電柱等設置占用料(公民館施設)			教育使用料		464			
						実績金額				決算附属資料	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	公民館利用人数	人	19485	/	44000	21254	/	44000	31954	/	44000
	利用件数	件	1212	/	2500	1495	/	2500	2247	/	2500
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	325	/	359	290	/	359	359	/	359
	単位あたりコスト		10.6		13.6		14.2				
	単位あたりコスト				5						中央公民館一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	住民の生涯学習の拠点、また地域公民館を取りまとめる機能として中央公民館は必要不可欠な組織である。 生涯学習活動に適した多様な部屋を利用して、公民館活動の充実が図られているが、施設としては市民交流プラザふくちやまと中央公民館のさらなる活用を検討する。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	施設の維持管理及び運営については、効率性を重視し事業運営を行っている。光熱水費等もかさむことから、受益者負担として、施設使用料(減免)の見直しについて検討していく必要があるが、地域住民の学び・集い・結ぶという公民館の設置目的から、十分な議論が必要である。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	生涯学習活動やサークル活動など、駅前のランドマークであり住民が生涯学習を実践する場として需要は高く、今後も多くの利用が期待できる。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での人と人との絆が薄れていく現代社会状況の中で、生涯学習環境の充実整備は、より一層強く求められてきており、中央公民館が快適安全で利便性の高い公共施設として、利用数は増加傾向であったが、令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策のため施設休止、利用制限等を余儀なくされた。令和4年度の施設利用者数は、コロナ禍前の水準に戻りつつある状況である。		
改 善 策	地域公民館未設置の南陵中学校区の公民館として、また、各地域公民館を統括する主管公民館であることから、今後も、公民館に多くの住民が集い、学び、人との絆を結ぶきっかけづくりとなるよう、生涯学習情報誌の作成や、市立公民館全体の情報発信を行ない、多くの住民の学習活動を推進していく。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	市民・住民が、中央公民館を快適に利用できるよう、すみやかな利用受付を行い、また生涯学習情報を提供することにより、多くの住民の学習活動を推進していく。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☒ 現状維持 ☐ 廃止／休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	川口地域公民館一般管理事業										事業コード	630102			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	252・254	頁
計画期間	開始年度	昭和51年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	川口地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。						
対象者	川口地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者			対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	3,816		6,333		3,767		3,578					
	② 補正予算	0		0		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		3,816		6,333		3,767		3,578					
予算財源内訳	① 一般財源	3,706		6,158		3,592		3,467					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	0		0		0		0					
	⑤ その他特財	110		175		175		111					
決算情報	① 流充用額	7		△ 757									
	② 配当予算	3,823		5,576									
	③ 執行額	3,672		5,576									
	④ 執行率	96.1%		100.0%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75			/			
	② 概算人件費	2,195		2,835									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		5,867		8,411									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	川口地域公民館使用料		種類	教育使用料		145		12			
			自動販売機等電気代等(川口地域公民館)			雑入		22				決算附属資料	46

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	公民館利用人数	人	3372	/	6400	1022	/	6400	4295	/	6400
	公民館利用件数	件	227	/	600	69	/	600	416	/	600
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	272	/	280	239	/	280	294	/	280
	単位あたりコスト		13.2		15.4		19.0				
	地域住民利用者数	人	3033	/	5000	421	/	5000	3268	/	5000
		単位あたりコスト	1.2		8.7		1.7				

川口地域公民館一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公民館の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の保守管理、修繕等を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化する中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。 地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、令和元年度より地域包括支援センターの機能を統合し連携した取組みを行っており、今後も利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。 令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことや午前中開館を実施したことで前年度より利用者数が増加した。		
改 善 策	令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図っていく。 また、令和5年度よりそれぞれの地域特性に応じた、協働のまちづくりを推進するため、地域公民館機能に加えて、「地域住民センター」としての機能を追加する。住民・民間企業・地域団体・NPOなど多様な主体が利用できるよう、非営利活動以外での使用を可能とし、住民の主体的な地域活動の促進や地域課題に取り組む人材のネットワークの形成等を推進する。 適正な施設の維持管理を行うため、計画的に大規模な改修を行っていく。		

Ⅵ 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	令和5年度より、生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した「地域住民センター」の位置づけを行った。今後、地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。また、令和6年度の大規模改修に向けて、内容等地元協議を進める。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持	☐ 廃止/休止	☐ 予算拡充	☒ 予算縮減
	☐ 他事業を統合	(統合事業名:)		☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	日新地域公民館一般管理事業										事業コード	630103			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	254	頁
計画期間	開始年度	昭和53年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	日新地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。						
対象者	日新地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者			対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	4,889		5,216		4,437		4,717					
	② 補正予算	0		0		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		4,889		5,216		4,437		4,717					
予算財源内訳	① 一般財源	4,574		4,901		4,279		4,402					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	0		0		0		0					
	⑤ その他特財	315		315		158		315					
決算情報	① 流充用額	0		△ 771									
	② 配当予算	4,889		4,445									
	③ 執行額	4,302		4,445									
	④ 執行率	88.0%		100.0%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75	/					
	② 概算人件費	2,195		2,835									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		6,497		7,280									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	日新地域公民館使用料		種類	教育使用料		120		12			
			自動販売機等電気代等(日新地域公民館)			雑入		15				決算附属資料	46

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	公民館利用人数	人	10980	/	21000	5224	/	21000	8074	/	21000
	公民館利用件数	件	1297	/	1500	641	/	1500	872	/	1500
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	272	/	288	239	/	288	294	/	288
	単位あたりコスト		14.8		18.0		15.1				
	地域住民利用人数	人	10877	/	20000	5170	/	20000	7897	/	20000
		単位あたりコスト		0.4		0.8		0.6			

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公民館の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の保守管理を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。令和4年度は大規模改修工事が着工したことで利用者が減少した。(改修期間: R4.9月～R5.10月予定)		
改 善 策	令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図っていく。 また、令和5年度よりそれぞれの地域特性に応じた、協働のまちづくりを推進するため、地域公民館機能に加えて、「地域住民センター」としての機能を追加する。住民・民間企業・地域団体・NPOなど多様な主体が利用できるよう、非営利活動以外での使用を可能とし、住民の主体的な地域活動の促進や地域課題に取り組む人材のネットワークの形成等を推進する。 適正な施設の維持管理を行うため、計画的に大規模な改修を行っていく。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	令和5年度より、生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した「地域住民センター」の位置づけを行った。今後、地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☒ 現状維持 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:)	☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---	--

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	北陵地域公民館一般管理事業										事業コード	630104				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422					
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	254		頁
計画期間	開始年度	昭和55年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中		
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則															
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (															

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	北陵地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。						
対象者	川口地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者			対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)						
予算情報	① 当初予算	2,361		4,172		2,384		2,230						
	② 補正予算	0		0		0		0						
	③ 繰越予算	0		0		0		0						
	前年度繰越	0		0		0								
	次年度繰越	0		0										
小計(①～③)		2,361		4,172		2,384		2,230						
予算財源内訳	① 一般財源	2,346		4,157		2,234		1,891						
	② 国支出金	0		0		0		0						
	③ 府支出金	0		0		0		0						
	④ 地方債	0		0		0		0						
	⑤ その他特財	15		15		150		339						
決算情報	① 流充用額	101		381										
	② 配当予算	2,462		4,553										
	③ 執行額	2,383		4,553										
	④ 執行率	96.8%		100.0%										
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.45	0.15	/	0.75			/				
	② 概算人件費	1,445		3,075										
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		3,828		7,628										
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	北陵地域公民館使用料		種類	教育使用料		実績金額	26		決算附属資料	12		頁
			北陵地域体育館 警察無線電気使用料			雑入			8			50		
			北陵地域公民館(太陽光発電充電料)			雑入			138			50		

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	公民館利用人数	人	861	/ 1000	976	/ 1000	3695	/ 1000	/ 4000	5000	
	公民館利用件数	件	37	/ 35	47	/ 35	150	/ 35	/ 200	250	
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	272	/ 288	239	/ 288	294	/ 288	/ 288	288	
		単位あたりコスト	7.7		10.0		15.5				
	地域住民利用人数	人	645	/ 800	730	/ 800	1704	/ 800	/ 2000	北陵地域公民館一般管理事業 2500	
		単位あたりコスト	3.3		3.3		2.7				

北陵地域公民館一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公民館の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の保守管理、修繕等を行った。	
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化する中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。令和4年3月に新しい北陵地域公民館が完成し、午前中開館を実施したことで前年度より利用者数が増加した。		
改 善 策	生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した「住民センター」とすべく、施設の新築工事と合わせ、関係課及び地域住民と協議を行い、令和4年度より「地域住民センター」の位置づけを行った。また、令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も地域公民館の利用機会拡大による施設の有効活用と市民サービス・満足度の向上を図っていく。公民館利用者数の現状に応じて、令和5年度から成果実績及び活動実績の最終目標の数値を見直した。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	地域住民のコミュニティ拠点として有効活用し、地域住民のニーズに添うよう、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。また、地域住民自らが地域課題解決や地域の発展に取り組む地域協議会との連携を図る。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☒ 予算縮減
	☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	六人部地域公民館一般管理事業										事業コード	630105			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	254	頁
計画期間	開始年度	昭和60年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	六人部地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、そして生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。					
対象者	六人部地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	3,659		5,987		3,285		2,881					
	② 補正予算	0		0		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		3,659		5,987		3,285		2,881					
予算財源内訳	① 一般財源	3,324		5,502		3,117		2,713					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	0		0		0		0					
	⑤ その他特財	335		485		168		168					
決算情報	① 流充用額	0		△ 761									
	② 配当予算	3,659		5,226									
	③ 執行額	3,401		5,226									
	④ 執行率	92.9%		100.0%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75	/					
	② 概算人件費	2,195		2,835									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		5,596		8,061									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	六人部地域公民館使用料		種類	教育使用料		322		12			
			自動販売機等電気代等(六人部地域公民館)			雑入		37				決算附属資料	46

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標		単位	R2		R3		R4		R5		最終目標	
	公民館利用人数		人	15836	/	22500	10530	/	22500	15790	/	22500	22500
	公民館利用件数		件	1484	/	3200	1005	/	3200	1444	/	3200	3200
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標		単位	R2		R3		R4		R5		最終目標	
	開館日数		日	271	/	288	239	/	288	294	/	288	288
	単位あたりコスト			11.9		14.2		17.8					
	地域住民利用人数		人	15247	/	20000	10387	/	20000	15498	/	20000	20000
		単位あたりコスト		0.2		0.3		0.3					

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公民館の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の保守管理を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことや午前中開館を実施したことで前年度より利用者数が増加した。		
改 善 策	令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図っていく。 また、令和5年度よりそれぞれの地域特性に応じた、協働のまちづくりを推進するため、地域公民館機能に加えて、「地域住民センター」としての機能を追加する。住民・民間企業・地域団体・NPOなど多様な主体が利用できるよう、非営利活動以外での使用を可能とし、住民の主体的な地域活動の促進や地域課題に取り組む人材のネットワークの形成等を推進する。 適正な施設の維持管理を行うため、計画的に大規模な改修を行っていく。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	令和5年度より、生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した「地域住民センター」の位置づけを行った。今後、地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:)	☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☒ 予算縮減 ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	--	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	成和地域公民館一般管理事業										事業コード	630106			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	254	頁
計画期間	開始年度	昭和61年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	成和地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。						
対象者	成和地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者			対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	7,043		9,900		7,162		6,859					
	② 補正予算	0		0		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		7,043		9,900		7,162		6,859					
予算財源内訳	① 一般財源	6,613		9,270		6,532		6,204					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	0		0		0		0					
	⑤ その他特財	430		630		630		655					
決算情報	① 流充用額	△ 202		△ 2,252									
	② 配当予算	6,841		7,648									
	③ 執行額	5,752		7,648									
	④ 執行率	84.1%		100.0%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75			/			
	② 概算人件費	2,195		2,835									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		7,947		10,483									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	成和地域公民館使用料		種類	教育使用料		401		12			
			自動販売機等電気代等(成和地域公民館)			雑入		52				決算附属資料	46
			公衆電話設置等手数料(成和地域公民館)			雑入		2					

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	公民館利用人数	人	21124	/	28000	16023	/	28000	25215	/	28000
	公民館利用件数	件	1314	/	1500	996	/	1500	1605	/	1500
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	274	/	289	239	/	289	294	/	289
	単位あたりコスト		20.3		24.1		26.0				
	地域住民利用人数	人	16147	/	26000	12137	/	26000	20946	/	26000
		単位あたりコスト	0.3		0.5		0.4				

成和地域公民館一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公民館の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の保守管理を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことや午前中開館を実施したことで前年度より利用者数が増加した。		
改 善 策	令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図っていく。 また、令和5年度よりそれぞれの地域特性に応じた、協働のまちづくりを推進するため、地域公民館機能に加えて、「地域住民センター」としての機能を追加する。住民・民間企業・地域団体・NPOなど多様な主体が利用できるよう、非営利活動以外での使用を可能とし、住民の主体的な地域活動の促進や地域課題に取り組む人材のネットワークの形成等を推進する。 適正な施設の維持管理を行うため、計画的に大規模な改修を行っていく。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	令和5年度より、生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した「地域住民センター」の位置づけを行った。今後、地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。また、令和7年度の大規模改修に向けて、内容等地元協議を進める。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☒ 予算縮減
	☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	桃映地域公民館一般管理事業										事業コード	630107			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	254・256	頁
計画期間	開始年度	平成29年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	桃映地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。						
対象者	桃映地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者			対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)			
予算情報	① 当初予算	2,131		4,231		1,715		6,404			
	② 補正予算	0		0		0		0			
	③ 繰越予算	0		0		0		0			
	前年度繰越	0		0		0					
	次年度繰越	0		0							
小計(①～③)		2,131		4,231		1,715		6,404			
予算財源内訳	① 一般財源	1,806		3,756		1,240		5,814			
	② 国支出金	0		0		0		0			
	③ 府支出金	0		0		0		0			
	④ 地方債	0		0		0		0			
	⑤ その他特財	325		475		475		590			
決算情報	① 流充用額	0		△ 379							
	② 配当予算	2,131		3,852							
	③ 執行額	2,049		3,852							
	④ 執行率	96.2%		100.0%							
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75	/			
	② 概算人件費	2,195		2,835							
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		4,244		6,687							
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	桃映地域公民館使用料		種類	教育使用料		353		12	頁
			自動販売機等電気代等(桃映地域公民館)			雑入		38			
						実績金額				決算附属資料	46

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標		単位	R2		R3		R4		R5		最終目標	
	公民館利用人数		人	11987	/	9000	7722	/	9000	12130	/	9000	13000
	公民館利用件数		件	961	/	1200	846	/	1200	1333	/	1200	1450
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標		単位	R2		R3		R4		R5		最終目標	
	開館日数		日	288	/	288	222	/	288	294	/	288	288
	単位あたりコスト			6.9		9.2		13.1					
	地域住民利用人数		人	4074	/	8500	3389	/	8500	5914	/	8500	8500
		単位あたりコスト		0.5		0.6		0.7					

桃映地域公民館一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公民館の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の保守管理を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。 また、他の地域公民館と同様に、体育館に加えて研修室や調理室、地域福祉や人権の拠点施設としての機能を持つ新たな公民館を設置していく必要がある。 令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことや午前中開館を実施したことで前年度より利用者数が増加した。		
改 善 策	生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、人権、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した新たな桃映地域公民館の建設に向けて、関係課及び地域住民と協議を行っていく。 令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図っていく。 公民館利用者数の現状に応じて、令和5年度から成果実績及び活動実績の最終目標の数値を見直した。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。 令和5年度の桃映地域公民館の建設に向けて事業を円滑に進める。 令和6年度予算は施設完成後の維持管理等の費用を計上しているため、前年度より増額要求となった。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 他事業を統合	☐ 廃止/休止 (統合事業名:	☒ 予算拡充)	☐ 予算縮減 ☐ 他事業へ統合	(統合先事業名:	)
--------	--	---	---	--	----------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	三和地域公民館一般管理事業										事業コード	630108				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422					
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	256		頁
計画期間	開始年度	平成18年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中		
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則															
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (															

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	三和地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。						
対象者	三和地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者			対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)						
予算情報	① 当初予算	3,942		4,890		4,547		2,073						
	② 補正予算	0		0		0		0						
	③ 繰越予算	0		0		0		0						
		前年度繰越	0		0		0							
		次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		3,942		4,890		4,547		2,073						
予算財源内訳	① 一般財源	3,827		4,775		4,432		0						
	② 国支出金	0		0		0		0						
	③ 府支出金	0		0		0		0						
	④ 地方債	0		0		0		0						
	⑤ その他特財	115		115		115		2,073						
決算情報	① 流充用額	26		△ 871										
	② 配当予算	3,968		4,019										
	③ 執行額	3,935		4,019										
	④ 執行率	99.2%		100.0%										
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75			/				
	② 概算人件費	2,195		2,835										
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		6,130		6,854										
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	三和地域公民館使用料		種類	教育使用料		実績金額	61		決算附属資料	12		頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	公民館利用人数	人	3831	/	8200	3536	/	8200	4367	/	8200
	公民館利用件数	件	433	/	700	350	/	700	467	/	700
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	327	/	359	290	/	359	359	/	359
	単位あたりコスト		10.8		13.6		11.2				
	地域住民利用人数	人	3796	/	7000	3470	/	7000	4153	/	7000
		単位あたりコスト	0.9		1.1		1.0				

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公民館の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の保守管理を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。令和4年度以降、三和荘での公民館運営について、今後も地域住民に広く利用され地域の拠点としての活用を図り、利用者を増やしていく。令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことから前年度より利用者数が増加した。		
改 善 策	令和4年度から三和荘内に事務所を移転しており、今後も支所との連携を図り、体育施設等の有効活用により、利用者増につなげる。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	三和荘改修後の公民館運営について、今後も地域住民に広く利用され地域の拠点としての活用を図り、住民のコミュニティ向上、生涯学習環境の充実を図る。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 他事業を統合	☐ 廃止/休止 (統合事業名:	☐ 予算拡充)	☒ 予算縮減 ☐ 他事業へ統合	(統合先事業名:	)
--------	--	---	------------------------------------	---	----------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	夜久野地域公民館一般管理事業										事業コード	630112				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422					
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	256		頁
計画期間	開始年度	平成18年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中		
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則															
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (															

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	夜久野地域の旧小学校体育施設を適正に管理することにより、市民の交流の場として、体力増進、健康づくりの活動が快適、安全に行なえることを目的とする。					
対象者	夜久野地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)			
予算情報	① 当初予算	1,626		1,307		266		441			
	② 補正予算	0		0		0		0			
	③ 繰越予算	0		0		0		0			
	前年度繰越	0		0		0					
	次年度繰越	0		0							
小計(①～③)		1,626		1,307		266		441			
予算財源内訳	① 一般財源	1,616		1,297		256		426			
	② 国支出金	0		0		0		0			
	③ 府支出金	0		0		0		0			
	④ 地方債	0		0		0		0			
	⑤ その他特財	10		10		10		15			
決算情報	① 流充用額	57		△ 38							
	② 配当予算	1,683		1,269							
	③ 執行額	1,605		1,269							
	④ 執行率	95.4%		100.0%							
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75	/			
	② 概算人件費	2,195		2,835							
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		3,800		4,104							
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	旧学校体育施設使用料(夜久野)		種類	教育使用料		13		12	頁
						実績金額		決算附属資料			

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標		単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	夜久野町旧小学校体育施設利用者		人	2480	/ 1500	1451	/ 1500	1662	/ 1500	/ 1500		1500
	夜久野町旧小学校体育施設利用件数		件	201	/ 200	125	/ 200	172	/ 200	/ 200		200
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標		単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数		日	201	/ 359	290	/ 359	359	/ 359	/ 359		359
	単位あたりコスト			8.7		5.5		3.5				
	夜久野町旧小学校体育施設地域住民利用者数		人	1900	/ 1500	1391	/ 1500	1566	/ 1500	/ 1500		1500

夜久野地域公民館一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	施設の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の管理を行った。	
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価 及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。 地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。 令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことから前年度より利用者数が増加した。		
改 善 策	施設の適正な維持管理を行うため計画的に修繕を行う必要がある。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	令和5年度より、生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した「地域住民センター」の位置づけを行った。今後、地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☒ 現状維持 ☐ 他事業を統合	☐ 廃止/休止 (統合事業名:)	☐ 予算拡充 ()	☐ 予算縮減 ☐ 他事業へ統合	(統合先事業名:)
--------	---	---	--------------------------------------	--	------------

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	大江町総合会館運営事業										事業コード	630116				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422					
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	256		頁
計画期間	開始年度	平成18年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中		
根拠法令等	福知山市大江町過疎地域総合センター条例															
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (															

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	大江町総合会館を適正に管理することにより、快適・安全な施設利用を進め、イベントホールもあることから、地域内外からの住民交流や生涯学習活動の場として利用されることを目的とする。					
対象者	大江地域住民を中心とする大江町総合会館利用可能対象者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	8,163		8,244		7,544		8,778					
	② 補正予算	0		0		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		8,163		8,244		7,544		8,778					
予算財源内訳	① 一般財源	7,693		7,774		7,074		8,048					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	0		0		0		0					
	⑤ その他特財	470		470		470		730					
決算情報	① 流充用額	33		915									
	② 配当予算	8,196		9,159									
	③ 執行額	8,146		9,159									
	④ 執行率	99.4%		100.0%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.06	/	0.05	0.11	/	0.05	/					
	② 概算人件費	605		1,005									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		8,751		10,164									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	大江町総合会館使用料		種類	教育使用料		662		12	頁		
			自動販売機等電気代等(大江町総合会館)			雑入		25				決算附属資料	46

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	総合会館利用人数	人	23170	/	25000	11510	/	25000	20040	/	25000
	総合会館利用件数	件	681	/	700	337	/	700	718	/	700
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	322	/	359	287	/	359	356	/	359
	単位あたりコスト		23.0		28.4		25.7				
	単位あたりコスト				23						

大江町総合会館運営事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	支所と連動した大江駅前の中心施設であり、適正な施設管理を行った。	☒ 高い ☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	施設の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の管理を行った。	
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化する中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。 地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。 支所と連携して活用を図る施設であるため、今後の施設運営・管理について、効率性・有効性を考えていく必要がある。		
改 善 策	施設の維持管理を適正に行うため計画的に修繕を行い利用者の利便性を図る。また、大きなホールもあることから多くの市民が利用し、活用していただくための企画の充実や周知方法についても検討していく。 施設の運営・管理について、効率性・有効性を考え検討する。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	大江町総合会館を適正に管理することにより、快適・安全な施設利用を進め、イベントホールもあることから、地域内外からの住民交流や生涯学習活動の場として活用を図る。してき令和6年度予算は建築基準法に基づく特定建築物定期報告の委託費用などを計上しているため、前年度より増額要求となった。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☒ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	地域公民館等施設改修事業							事業コード	630127					
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち				政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり						施策コード	422					
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館				所属長	岸見 貴志							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計	決算附属資料	256	頁
計画期間	開始年度	令和4年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-			R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則													
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (													

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	市民交流プラザふくちやまについて、引き続き、利便性を確保し、安心安全な利用環境を維持するため、Wi-Fiファイアーウォールの更新及び館内照明のLED化を行うことにより、生涯を通じた学びの場づくりを行う。					
対象者	中央公民館及び地域公民館等利用可能対象者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)						
予算情報	① 当初予算	0		3,650		40,000		71,936						
	② 補正予算	0		0		0		0						
	③ 繰越予算	0		0		0		0						
	前年度繰越	0		0		0								
	次年度繰越	0		0										
小計(①～③)		0		3,650		40,000		71,936						
予算財源内訳	① 一般財源	0		0		0		4,007						
	② 国支出金	0		0		0		0						
	③ 府支出金	0		0		0								
	④ 地方債	0		1,500		33,300		63,300						
	⑤ その他特財	0		2,150		6,700		4,629						
決算情報	① 流充用額	0		1,979										
	② 配当予算	0		5,629										
	③ 執行額	0		5,629										
	④ 執行率			100.0%										
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.00	/	0.00	0.08	/	0.05	/						
	② 概算人件費	0		765										
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		0		6,394										
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	地域公民館等施設改修事業基金繰入(公共施設等総合管理基金)			種類	基金繰入金		3,928		42	頁		
			地域公民館等施設改修事業(公適・脱炭素化)				教育債		1,700				決算附属資料	56

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	地域公民館等施設利用者数	件	/	/	120137 / 128000	/ 128000	128000
	(市民交流プラザ・中央公民館)		/	/	/	/	
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	設計委託等の実績	件	/	/	2 / 2	/ 2	2
	単位あたりコスト				2814.5		
	単位あたりコスト		/	25 /	/	/	地域公民館等施設改修事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・市民交流プラザふくちやまは、市内外から様々な利用者が利用する施設であり、照明のLED化、及びフリーWi-Fiによるインターネットウイルスを防止するファイアウォール機器の更新は、安全安心かつ快適な施設として利用するために、優先度の高い事業である。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・市民交流プラザふくちやまの中央公民館及び図書館で多くの利用者がある。 ・省エネ、環境面への配慮からも照明LED化を図書館と進めている。 ・Wi-Fiファイアウォールを活用することでパソコン、スマホ等の利用者に安心して使用してもらえる環境にある。現在の機器の老朽化により更新を進めている。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・今年度はコロナ感染予防の観点から少し影響はあるものの、計画的な社会教育・生涯学習の実施により、多くの貸館を行っている。 ・フリーWi-Fiについても利用者への安心、安全なインターネット環境を提供できおり機器更新することで同様の環境を提供できる。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	・照明LED化により、消費電力を抑えることでコスト削減に加え、CO2排出を削減しSDGsを推進する。 ・今後のインターネット環境に対応したWi-Fiファイアウォールの機器を更新する時期となっており、安心、安全な利用ができる環境を整えた。 ・令和4年度市民交流プラザふくちやまLED化設計業務を完了し、令和5年度以降、市民交流プラザふくちやま照明LED化工事を行う。		
改 善 策	・市民交流プラザふくちやまの照明LED化工事に係る設計を完了し、令和5年度工事着工に向けて準備を進める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	市民交流プラザふくちやまと各地域公民館が市内・地域等利用者に安心安全で快適な公共施設として提供できるように施設の改修等を進める。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☒ 予算拡充 ☐ 予算縮減
	☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	スマートシティふくちやま生涯学習市民講座実施事業										事業コード	630146			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施策名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	256	頁
計画期間	開始年度	令和3年度		終了予定年度	令和5年度		関連計画名	スマートシティふくちやま基本計画					R5現在の状況	継続中	
根拠法令等	-														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☒ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	本市のスマートシティ推進計画実現に向け各公民館でIT講座を実施する経費。本市のスマートシティ推進計画は、すべての市民がICT等による利便性の高い社会の中で、安心・安全に暮らし続けることを目標に推進している。この計画のもと、「誰一人取り残さない」スマートシティを目指し、地域公民館10館でスマホやタブレット等身近なICT機器の便利な使い方や活用法を学ぶ、生涯学習市民講座を生涯を通じた学びの一環として開催する。					
対象者	講座参加者		対象者数	300	単位あたりコスト	24.8
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)			
予算情報	① 当初予算	1,446		2,148		2,131		0			
	② 補正予算	0		0		0		0			
	③ 繰越予算	0		0		0		0			
	前年度繰越	0		0		0					
	次年度繰越	0		0							
小計(①～③)		1,446		2,148		2,131		0			
予算財源内訳	① 一般財源	0		0		0		0			
	② 国支出金	0		0		0		0			
	③ 府支出金	0		0		0		0			
	④ 地方債	0		0		0		0			
	⑤ その他特財	1,446		2,148		2,131		0			
決算情報	① 流充用額	595		△ 48							
	② 配当予算	2,041		2,100							
	③ 執行額	1,917		2,100							
	④ 執行率	93.9%		100.0%							
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.25	/	0.95	0.37	/	0.95	/			
	② 概算人件費	4,375		5,335							
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		6,292		7,435							
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	スマートシティふくちやま生涯学習市民講座実施事業基金繰入(ふるさと創生事業基金)		種類	基金繰入金		1,050		40	頁
			スマートシティふくちやま生涯学習市民講座実施事業(きょうと地域連携交付金)			教育費府補助金		568			
						実績金額				決算附属資料	32

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	概ね満足された人の割合	%	/	84 / 100	82 / 100	/ 100	100
			/	/	/	/	
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	講座参加者数	人	/	200 / 200	230 / 300	/ 300	300
	単位あたりコスト			9.6	9.1		
	講座開催数	回	/	30 / 30	50 / 50	30 / 30	30
	単位あたりコスト			63.9	42.0		

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	すべての市民がICT等による利便性の高い社会の中で、安心・安全に暮らし続けることを目標としている本市のスマートシティ推進計画実現のため不可欠であり、需要も高く、講座申込みは早期に定員に達するなど市民ニーズが高い。 令和4年度は、参加者のスキルに応じて講座内容を変えて、「スマホ・タブレットへの乗り換えに前向きになれる講座」、「初心者コース」、「チャレンジコース」の3つのコースの講座を実施し、各コース定員10名で、延べ230名の方が受講された。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	講座については、現在福知山公立大学情報学部へ委託しており、内容の充実と参加者個々のレベルに合わせた講座となっている。テキストもわかりやすく、参加者の多くが講座内容に満足されている。 今後については、このまま大学連携として実施するか、コスト削減の観点から他の事業者も含めた実施方法とすることを検討する。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	コースによっては参加枠を超える受講希望者がある等、市民の生涯学習意欲は高まっている。講師についても、福知山公立大学の学生が行うことにより、地域の人材育成や相互に学びあう場となっている。 受講後アンケートの受講者満足度も高く、本市のスマートシティ推進計画実現に向けて有効性は高い。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	●すべての市民がICT等による利便性の高い社会の中で、安心・安全に暮らし続けることを目標としている本市のスマートシティ推進計画実現のもと、行っている事業であり、市民ニーズも高く、受講者からも好評を博している講座である。一方、実質的なスキルの向上について把握、評価できていないことが課題である。また、参加者にスキルの差があり、より効果的な講座とするための方法を考える必要がある。		
改 善 策	●スマホを含むICT機器の所持率増加や活用率の増加にどれくらい寄与しているか等分かりやすい数値として評価できないか検討していく。 ●スマートシティ推進計画の実現を目的としており、実施方法等、今後の方向性について、デジタル政策推進課と協議を行う。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☒ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	令和6年度以降は、各地域公民館の一般講座の中で必要に応じて実施する。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:)	☒ 廃止/休止 (統合事業名:)	☐ 予算拡充 (統合先事業名:)	☐ 予算縮減 ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---	--	---	--

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	大江地域公民館一般管理事業										事業コード	630162				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422					
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	258		頁
計画期間	開始年度	平成18年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中		
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則															
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (															

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	大江地域公民館の適正な管理運営により、快適・安全な施設利用を提供し、地域住民の交流を促進するとともに、生涯学習活動の場として、多くの住民に利用されることを目的とする。						
対象者	大江地域住民を中心とする地域公民館等利用可能対象者			対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)					
予算情報	① 当初予算	2,922		5,014		2,580		2,429					
	② 補正予算	0		0		0		0					
	③ 繰越予算	0		0		0		0					
	前年度繰越	0		0		0							
	次年度繰越	0		0									
小計(①～③)		2,922		5,014		2,580		2,429					
予算財源内訳	① 一般財源	2,858		4,932		2,505		0					
	② 国支出金	0		0		0		0					
	③ 府支出金	0		0		0		0					
	④ 地方債	0		0		0		82					
	⑤ その他特財	64		82		75		2,347					
決算情報	① 流充用額	60		△ 821									
	② 配当予算	2,982		4,193									
	③ 執行額	2,631		4,193									
	④ 執行率	88.2%		100.0%									
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.04	/	0.75	0.12	/	0.75			/			
	② 概算人件費	2,195		2,835									
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		4,826		7,028									
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	大江地域公民館使用料		種類	教育使用料		57		決算附属資料	12		頁
			自動販売機等電気代等(大江地域公民館)			雑入		19			46		
			有路上公民館損害保険料			雑入		7			50		

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	公民館利用人数	人	2867	/	6000	2261	/	6000	3955	/	6000
	公民館利用件数	件	315	/	500	261	/	500	506	/	500
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	287	/	288	239	/	288	294	/	288
	単位あたりコスト		8.9		11.0		14.3				
	地域住民利用人数	人	2542	/	6000	1716	/	6000	2526	/	6000
		単位あたりコスト	1.0		22.7		1.7				

大江地域公民館一般管理事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	地域住民の生涯学習の拠点として公民館は必要不可欠であるため、市民が安全で効果的な生涯学習活動ができる施設として適正に維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	施設の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の管理を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	公民館は、地域住民の自主的な学びの場であり、サークル活動など、地域住民が生涯学習を実践する場としての需要が高いため、利用者に支障のないよう施設の維持管理を行った。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。地域住民に広く利用され地域の拠点とするため、利用者の利便性を図ることにより利用者数を増やしていく必要がある。令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことや午前中開館を実施したことで前年度より利用者数が増加している。		
改 善 策	令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図っていく。 若い世代の利用促進につなげるため、絵本の読み聞かせや子育て世代向けの講座にも取り組む。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	令和5年度より、生涯学習の拠点としての公民館機能に加え、地域福祉、住民自治、避難所機能等、地域経済発展に寄与するより多目的な機能を有した「地域住民センター」の位置づけを行った。今後、地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☒ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	市民交流プラザふくちやま管理運営事業										事業コード	630167			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	258	頁
計画期間	開始年度	平成26年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	市民交流プラザふくちやま条例、福知山市立公民館条例														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	市民交流プラザふくちやまの施設利用者の安全と利便性を確保し、適正で効率的な維持管理運営を行う。					
対象者	市民及び在住・在勤者を中心とした市内外住民不特定多数		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.9
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	53,778		52,412		69,878		68,671				
	② 補正予算	0		10,720		0		0				
	③ 繰越予算	0		0		0		0				
	前年度繰越	0		0		0						
	次年度繰越	0		0								
小計(①～③)		53,778		63,132		69,878		68,671				
予算財源内訳	① 一般財源	35,176		44,530		49,421		47,301				
	② 国支出金	0		0		0		0				
	③ 府支出金	0		0		0		0				
	④ 地方債	0		0		0		0				
	⑤ その他特財	18,602		18,602		20,457		21,370				
決算情報	① 流充用額	2,512		△ 2,049								
	② 配当予算	56,290		61,083								
	③ 執行額	56,288		61,083								
	④ 執行率	100.0%		100.0%								
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.23	/	0.35	0.34	/	0.50	/				
	② 概算人件費	2,715		3,970								
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		59,003		65,053								
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	市民交流プラザふくちやま駐車場使用料		種類	総務使用料		4,643		決算附属資料	10	頁
			市民交流プラザふくちやま使用料			総務使用料		6,458			10	
			広告料収入(市民交流プラザふくちやま広告収入)			雑入		325			46	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	市民交流プラザふくちやま利用者数	人	222786	/	423000	209802	/	423000	273142	/	423000
	市民交流プラザふくちやま利用件数	件	3375	/	6400	2830	/	6400	3926	/	6400
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	開館日数	日	325	/	359	290	/	359	359	/	359
	単位あたりコスト		160.1		194.1		170.1				
	単位あたりコスト				31				市民交流プラザふくちやま管理運営事業		

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	駅前のランドマークとして市外、府外の利用者も多く、コミュニティづくり、憩いの場として目的に応じた機能を果たし、安全安心で快適な公共施設として提供できるよう施設の適正な維持管理を行った。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	府施設予約システムを導入し(R2.10)、利用者の利便性向上、事務効率化に努めている。また、施設の効率的な維持管理を行うため、適正に施設の管理を行った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	令和4年度の施設利用者数は、令和4年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による休館等がなかったことから、コロナ禍前の水準に戻りつつある状況である。適正な維持管理により、安心安全に、また快適に利用が図られている。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	少子高齢化や地域での住民同士の絆の希薄化等、社会状況が変化の中で生涯学習環境の充実及び整備は、より一層強く求められており、施設の修繕や備品の整備等を計画的に進め、地域住民に快適安全で利便性の高い公共施設を提供してきた。今後、利用者の利便性の向上を目指して、計画的に施設整備を行う。		
改 善 策	計画的に施設整備の改修等を行い利用者の利便性の向上を図る。 R5年以降、館内照明のLED化を進める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の事業の見直し及び予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	継続して施設の安心安全、健全な維持管理に努める。R5・6年度に館内照明のLED化を進める。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☒ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減	☐ 他事業を統合 ☐ 他事業へ統合	(統合事業名:) (統合先事業名:)
--------	--	--	-------------------------

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	地域公民館等スマートシティ推進事業										事業コード	630187				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422					
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	258		頁
計画期間	開始年度	令和4年度		終了予定年度	令和4年度		関連計画名	-				R5現在の状況		廃止/休止		
根拠法令等	-															
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (															

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	デジタル化、オンライン化が急速に進む中、ICT機器の利用環境の整備に関する時代のニーズに応えるとともに、施設利用者へのサービス向上を図るため、各地域公民館(川口、成和、大江)にWi-Fi機能の整備を行い、利便性向上による施設機能の強化・充実を図り、生涯を通じた学びの場づくり、環境づくりを行う。					
対象者	事業実施地域公民館(川口、成和、大江)利用可能対象者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.2
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)			
予算情報	① 当初予算	0		12,000		0		0			
	② 補正予算	0		0		0		0			
	③ 繰越予算	0		0		0		0			
	前年度繰越	0		0		0					
	次年度繰越	0		0							
小計(①～③)		0		12,000		0		0			
予算財源内訳	① 一般財源	0		3,600		0		0			
	② 国支出金	0		0		0		0			
	③ 府支出金	0		0		0		0			
	④ 地方債	0		8,400		0		0			
	⑤ その他特財	0		0		0		0			
決算情報	① 流充用額	0		112							
	② 配当予算	0		12,112							
	③ 執行額	0		12,112							
	④ 執行率			100.0%							
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.00	/	0.00	0.27	/	0.15	/			
	② 概算人件費	0		2,535							
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		0		14,647							
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	地域公民館等スマートシティ推進事業(緊急防災・減災)		種類	教育債		12,100		56	頁
								実績金額			
								決算附属資料			

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	Wi-Fi整備完了済地域公民館	館	/	/	3 / 3	/ -	3
			/	/	/	/	
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	業務の実績	件	/	/	3 / 3	/ -	3
	単位あたりコスト				4037.3		
			/	33 /	/	地域公民館等スマートシティ推進事業	
		単位あたりコスト					

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・生涯学習の拠点施設、市民の創作活動・文化活動の向上発展を推進する場として、インターネットを活用した学習活動ができ、また、避難所として災害時に避難者がインターネットにより防災情報を活用できる環境が提供できるため、優先度の高い事業である。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	今後、地域公民館機能に加えて、地域福祉、住民自治、広域避難所等の機能を集約した複合施設として、地域コミュニティや地域の情報拠点とする計画である。本事業の実施は、施設機能の強化・充実、利用者の利便性向上が図れることから、Wi-Fi整備を行うことは効率的である。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	インターネット環境を整備したことにより、市民の時代ニーズに添った生涯学習時に活用できるとともに、施設利用者の利便性の向上が図れる。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	生涯学習講座や市民サークル・サロンの活動、また、会議等においても市民ニーズ、時代ニーズに添った活動を進めることができる。更に災害時に避難者がインターネットを利用できる環境を整備した。本事業については、川口、成和、大江の各地域公民館のWi-Fi整備完了に伴い、令和4年度で終了する。		
改 善 策	生涯学習講座・教室等でインターネットを活用した取組を進める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☒ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☒ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	中央公民館及び地域公民館事業										事業コード	630263			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60040000 教育委員会 中央公民館						所属長	岸見 貴志						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	02 公民館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	258	頁
計画期間	開始年度	昭和47年度		終了予定年度	令和8年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	社会教育法 福知山市立公民館条例 福知山市立公民館条例施行規則														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	「つどう」「まなぶ」「むすぶ」という公民館の目的に添った生涯学習講座等を開催し、地域住民の主体的な学習活動を促進することにより、活動を通じた人と人、地域の絆を深め、地域社会への貢献やコミュニティづくりへの意識を高めていく。また、人づくり・地域づくりを担う人材の育成につなげていく。					
対象者	中央公民館及び地域公民館等利用可能対象者		対象者数	75,471	単位あたりコスト	0.5
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)		
予算情報	① 当初予算	2,740		5,646		4,417		3,932		
	② 補正予算	0		0		0		0		
	③ 繰越予算	0		0		0		0		
	前年度繰越	0		0		0				
	次年度繰越	0		0						
小計(①～③)		2,740		5,646		4,417		3,932		
予算財源内訳	① 一般財源	2,740		5,646		4,417		0		
	② 国支出金	0		0		0		0		
	③ 府支出金	0		0		0		0		
	④ 地方債	0		0		0		0		
	⑤ その他特財	0		0		0		3,932		
決算情報	① 流充用額	718		△ 298						
	② 配当予算	3,458		5,348						
	③ 執行額	2,536		5,348						
	④ 執行率	73.3%		100.0%						
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.13	/	11.10	0.25	/	10.65	/		
	② 概算人件費	28,790		28,625						
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		31,326		33,973						
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称		種類		実績金額		決算附属資料		頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	一般講座参加者数	人	4083	/ 5600	3947	/ 5600	7615	/ 5600	/ 8000	8000	
	講座参加者満足度	点	4.49	/ 5	4.63	/ 5	4.34	/ 5	/ 5	5	
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	一般講座の回数	回	301	/ 400	296	/ 400	492	/ 400	/ 520	520	
		単位あたりコスト	7.8		8.6		10.9				
			/		35 /		/		中央公民館及び地域公民館事業		
		単位あたりコスト									

中央公民館及び地域公民館事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	多様な生涯学習機会を提供し、学習活動を通じて地域課題解決につなげていく力を培う意義の高いものである。社会教育法に基づき設置した施設であり、市の負担が妥当である。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	講座や教室については、地域コミュニティづくりを推進していく観点から、材料費のみを参加者負担で実施しているが、今後、受益者負担についても検討する必要がある。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	参加枠を超える受講希望者がある等、市民の生涯学習意欲は高まっている。講師についても、学生から高齢者までの地域住民を活用することにより、地域の人材育成や相互に学びあう場となるよう取り組んでいる。各講座参加者にアンケート（年代、参加経歴、満足度、講座認知等、各館共通の項目）を実施し、利用者ニーズの把握に努めている。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	多様な生涯学習講座を開催し、きっかけ作りをし、参加を促すことで自己実現、仲間づくり、世代間交流等が図られるとともに地域の絆が育まれている。住民の学習意欲も高まっており、小学校区で組織されている地区公民館と連携し、住民交流や人材育成のために欠かせない場所となっている。 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止せざるを得なかった講座もあったが、感染防止対策を参加者にも協力いただく中で実施した。 令和4年度は、「まちづくり構想 福知山」を具現化することを目的として、生涯学習講座の特別枠として、「まちづくり担い手育成講座」、「防災講座」等の講座を実施したほか、市立公民館10館合同では初となる子育て世代を対象としたイベントを企画・開催した。 各講座参加者には、公民館共通した項目を設定したアンケートを継続し、利用者ニーズの把握に努めた。 社会情勢の変化に伴い、これまで以上に地域コミュニティづくりや地域課題解決に必要な学習を盛り込んだ生涯学習講座を実施していく必要がある。		
改 善 策	公民館の主催する生涯学習講座を通して、高齢社会、安心安全、環境問題等、地域課題に対応した学習活動や情報提供を行い、地域住民の主体的な地域づくりや学習活動の促進に努める。 令和4年度から地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、午前中から開館しており、今後も利用者の利便性の向上を図り、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図っていく。 一般講座参加者数の現状に応じて、令和5年度から成果実績及び活動実績の最終目標の数値を見直した。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	地域公民館を地域住民のニーズに添うよう、公民館の機能向上、市民の生涯学習環境の充実を図る。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持	☐ 廃止/休止	☐ 予算拡充	☒ 予算縮減
	☐ 他事業を統合	(統合事業名:)		☐ 他事業へ統合

(単位：千円)

事業名	資料収集整理事業							事業コード 630301			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち					政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり			
	施策名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり						施策コード	422		
事業担当	所属	60050000 教育委員会 図書館					所属長	山路 智子			
会計情報	款	10 教育費	項	05 社会教育費	目	03 図書館費	会計	01 一般会計	決算附属資料	260	頁
計画期間	開始年度	昭和21年度	終了予定年度	令和7年度	関連計画名	第3次福知山市子どもの読書活動推進計画			R5現在の状況	継続中	
根拠法令等	図書館法、福知山市立図書館条例										
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 ()										
関連事業	中央館運営事業、分館運営事業(三和・夜久野・大江)、佐藤八重子記念子ども読書活動支援事業、図書館電子書籍貸出サービス事業、図書館システム機器等更新事業										

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	資料の収集は図書館の根幹であり、資料収集方針に則り、幅広い分野から計画的に図書を購入・所蔵し、利用者の学習意欲や知る権利を満たす。特に子どもの読書活動推進計画に沿って、絵本や児童書を充実させ、子どもたちがより読書に親しめる環境づくりを促進する。郷土資料など地域の情報を整理保存して「地域の情報ステーション」となるとともに、通勤・通学・商業の拠点として三たん地域の住民の需要に応える蔵書を確保し、図書館利用による集客を促進する。				
対象者	福知山市民(在住、在学、在勤)・三たん地域在住者	対象者数	650,085	単位あたりコスト	0.0
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 ()				
委託先・実施主体等	㈱福島文進堂、㈱図書館流通センター、ナカバヤシ㈱大阪支店				
事業概要 (簡条書き)	・中央館及び三和、夜久野、大江分館の地域に根ざした特色ある図書館づくりを進めるため、地域の情報、保存すべき資料、閲覧・貸出ニーズの高い資料を中心に、幅広い分野から計画的に図書を購入・所蔵する。				
主な支出に係る 業務内容と経費	支出に係る主な費目	支出実績(R4)	主な業務内容		
	需用費	2,793	雑誌購入費、新聞購読料		
	委託料	1,229	郵送料		
	使用料及び賃借料	746	法令オンラインデータベース賃貸借、新聞記事オンラインデータベース賃貸借等		
	備品購入費	12,343	閲覧用図書購入		

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	19,539		17,236		16,948		16,468				
	② 補正予算	0		0		0		0				
	③ 繰越予算	0		0		0		0				
	前年度繰越	0		0		0						
	次年度繰越	0		0								
小計(①～③)		19,539		17,236		16,948		16,468				
予算財源内訳	① 一般財源	13,839		11,536		11,248		10,768				
	② 国支出金	0		0		0		0				
	③ 府支出金	0		0		0		0				
	④ 地方債	0		0		0		0				
	⑤ その他特財	5,700		5,700		5,700		5,700				
決算情報	① 流充用額	334		0								
	② 配当予算	19,873		17,236								
	③ 執行額	19,863		17,111								
	④ 執行率	99.9%		99.3%								
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.97	/	1.86	0.63	/	1.82	/				
	② 概算人件費	12,410		9,590								
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		32,273		26,701								
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	佐藤八重子記念子ども読書活動振興事業基金繰入(佐藤八重子記念子ども読書活動振興基金)		種類	基金繰入金		3,361		決算附属資料	40	頁
			弁償金(図書館資料)			弁償金		11			44	
			除籍資料売却			物品売払収入		3			36	

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	年間来館者数(全館)	人	152478 / 330000	128882 / 330000	156356 / 330000	/ 220000	220000
	実利用人数(貸出人数)	人	9852 / 12200	9742 / 12200	9855 / 12200	/ 12200	12200
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	年間資料貸出冊数(全館)	冊	498678 / 600000	475065 / 600000	499451 / 600000	/ 520000	520000
	単位あたりコスト		0.0	0.0	0.0		
	蔵書点数(全館 寄贈受入含む)	点	320000 / 315000	328237 / 315000	342232 / 315000	/ 315000	315000
	単位あたりコスト		0.1	0.1	0.0		

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	情報収集・発信の役割及び様々な資料の保存場所として、長年にわたり市民や社会のニーズに応えてきており、今後も豊富な資料を備えて、その役割を果たすことは必要である。より魅力的な図書館を目指すために、新鮮で豊富な資料が必要であり、蔵書や利用状況を見ながら計画的に収集していくことで、多くの市民に利用いただけるものとする。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	図書購入は、毎年入札により契約しており、最も効率よく低コストで購入できている。図書の新規購入以外に、市内の分館や京都府内の図書館との相互貸借制度を活用し、本を相互に流通させて有効活用している。利用促進に向けて、タイムリーな話題や工夫を凝らした特集展示を実施している。特集展示などについて、新聞社へ積極的に広報を行い、効率的に図書資料のアピールを進めることができた。庁内・庁外の機関と連携した各種展示を図書館内で行うことにより、図書館利用者数の増加を図った。雑誌スポンサー制度の導入により、府内No.1の雑誌の寄贈数があり、コストを削減できた。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	新型コロナウイルス感染拡大により、座席数の制限を行っていた影響もあり、来館者数については低い値となっている。貸出数にも影響しているが、令和2年度以降では回復傾向にある。また市外の利用者も安定して高い水準で利用がある(43,244冊の貸出)。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	本事業は図書館の本質にかかわる事業であり、蔵書の充実度や構成は指標(来館者数・貸出冊数)に確実に影響する。しかし影響は即座に現れず数年程度の遅れがあると思われる。新中央館の新館効果と書架の大幅な拡大により利用者が増えたが、現在は毎年減少傾向にある。さらに、新型コロナウイルス感染拡大を受け、臨時休館やおはなし会などのイベント自粛、座席数の制限などにより、成果目標の達成は困難な状況にある。そのような中でも『暮らしに読書を、おうえん貸出セット』『図書館資料宅配サービス』『電子書籍貸出サービス事業』などの非来館型の新たなサービスを開始した。利用者を増やすためには方策が必要であり、利用促進に向けたタイムリーな話題や工夫を凝らした毎月の特集展示の実施と、それに伴う情報発信の強化は評価できる。また、三たん地域の住民による利用者も多く、通勤・通学・買い物などで本市を訪れる方の集客に一定の効果が認められる。		
改 善 策	コロナ禍で自粛していたイベントの再開など来館型サービスの充実を図る。新規利用者及び図書館への来館者が増えるよう、市内各種イベントと連携した企画、展示などにさらに取組、情報発信を継続して取り組む。さらに有効で保存価値のある資料、地域や世の中の流れに沿ったニーズの高い資料をタイムリーに提供するなど、利用者の多様なニーズに応える蔵書を構成する。また、今後もバリアフリーサービスの充実、郷土資料を魅力的に収集・整理し、地域情報としての機能を強化する。来館者が適切な資料を探し当てられるよう、レファレンス機能の充実など職員の資質向上に努め、お客様サービスの向上を図る。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換え ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	引き続き、資料の収集・整理・保存に努める。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☒ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---

| 事業属性

(単位：千円)

II 事業基礎情報

III 予算執行状況

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2	R3	R4	R5		最終目標
	年間来館者数	人	133935 / 302300	109987 / 302300	136930 / 302300	/	196000	196000
	実利用人数(貸出人数)	人	9852 / 12200	9742 / 12200	9855 / 12200	/	12200	12200
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2	R3	R4	R5		最終目標
	年間資料貸出冊数	冊	444048 / 539000	420788 / 539000	445598 / 539000	/	461000	461000
		単位あたりコスト	0.1	0.1	0.1			
			/	39 /	/	/		中央館運営費
		単位あたりコスト						

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	- 市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か - 民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か - 目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	公立図書館は、図書館法に規定された利用者の教育と文化の発展に寄与することを目的として設置している社会教育施設であり、その必要性は高い。 また、利用に対するいかなる対価も徴収してはならないと規定されている公立図書館が果たす社会的役割は大きく、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資するための施設として、政策目標である「それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり」の取組を進めるべく運営に取組んでいる。	☒ 高い
効 率 性	- 受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か - 他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか - コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公立図書館は、その利用者に対価を求めることを前提としない社会教育施設であり、受益負担の概念にはなじまない。 ただし、限られた予算の中で必要な又は必要とされる資料を収集するため、本来定価である図書の入札契約による購入、分館や市外他館との相互貸借の取組により、コストの削減や効率化に向けて取組んでいる。 既存の蔵書を活用し、「暮らしに読書を、おうえん貸出セット」にハーフセットを追加するなど、図書館資料の有効活用を図った。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	- 成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか - 活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか - 先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	新中央館の新館効果が薄れて定着期に入ったこと、新型コロナウイルス感染予防のため来館を控える利用者はあるものの、ここ数年減少をしていた各指標の数値は、前年度を上回り回復傾向に転じている。 新たな利用者を図書館に呼び込むため、行政機関の啓発展示を募集し、関連本を紹介するコラボ企画の取組や広報ふくちやまによる各種事業などの紹介を実施し、一定の成果を上げており、今後においても継続的な取組を行う。 従来の来館型の図書館方式と非来館型である電子図書館とを併用したハイブリッド図書館として利用者の生涯学習に寄与する取組を進めていく。	
定性的な面も含めた自己評価 及び現状の課題	地域の情報収集や知識習得の場として中央館は欠かせないものであり、今後も引き続き、特色のある図書館づくりを進めるとともに、利用者にとってよりよい図書館となるよう、利用者のニーズを把握しそれに応えていくことが大切であると考えている。 また、福知山公立大学、北部7市町図書館、丹波市・朝来市との3市図書館連携、福知山産業支援センターや京都ジョブパーク等の外部機関との連携による利用者サービスの充実が評価できるものである。 さらに、新たな利用者を図書館に呼び込むための様々な取組の実施と広報により、図書館の認知を広めていることは評価できる。		
改 善 策	住民の知る自由を保障することは、公立図書館の重要な責務である。この責務を果たすため、職員研修を定期的に行うとともに、外部研修を受講することで専門性を高め、地域の情報ステーションとして質の高い図書館サービスを提供する。 図書館利用者増加に向けて、新規利用者を図書館に呼び込むための取組の実施と情報発信を、今後も継続実施する。 令和2年度に開始した「図書館宅配サービス」や、「暮らしに読書を、おうえん貸出セット」、令和3年度に開始した「電子書籍貸出サービス事業」などの新サービスの提供により、図書館資料を活用する住民の選択肢も増えており、利用者にとってよりよい図書館となるよう、利用者のニーズに寄り添ったサービスの提供に努めていくことが必要である。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☒ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	人件費が職員課に移管され、各分館事業の事業費規模が小さくなったことを受け、「630302中央館運営事業」「630303三和分館運営事業」「630304夜久野分館運営事業」「630305大江分館運営事業」の4事業を統合し、「630349図書館運営事業」に名称を変更する。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☒ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名: 図書館運営事業)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	三和分館運営事業										事業コード	630303			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60050000 教育委員会 図書館						所属長	山路 智子						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	03 図書館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	260	頁
計画期間	開始年度	平成18年度		終了予定年度	令和7年度		関連計画名	第3次福知山市子どもの読書活動推進計画				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	図書館法、福知山市立図書館条例														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☒ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	公立図書館として、図書館三和分館において安定した図書サービスを提供し、市民にとって地域の情報収集や知識習得の場として、魅力ある図書館として運営することを目的とする。 図書館サービスの充実・向上を目指し、利用者がよりよく課題を解決するための利用や、主体的な学習活動・読書活動の充実を図るため、利用者ニーズの把握や利用環境の整備に努める。より多くの方に利用していただくため、積極的な情報提供・情報発信や啓発を行うとともに、関係機関・関係団体と連携し、地域の拠点施設としての図書館サービスの拡充を図る。						
対象者	福知山市民(在住、在学、在勤)・三たん地域在住者			対象者数	650,085	単位あたりコスト	0.0
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)						
予算情報	① 当初予算	2,114		2,220		310		0						
	② 補正予算	0		0		0		0						
	③ 繰越予算	0		0		0		0						
	前年度繰越	0		0		0								
	次年度繰越	0		0										
	小計(①～③)	2,114		2,220		310		0						
予算財源内訳	① 一般財源	2,114		2,220		310		0						
	② 国支出金	0		0		0		0						
	③ 府支出金	0		0		0		0						
	④ 地方債	0		0		0		0						
	⑤ その他特財	0		0		0		0						
	決算情報	① 流充用額	△ 91		295									
② 配当予算		2,023		2,515										
③ 執行額		1,993		2,492										
④ 執行率		98.5%		99.1%										
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.22	/	0.75	0.12	/	0.60			/				
	② 概算人件費	3,635		2,460										
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		5,628		4,952										
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称			種類			実績金額			決算附属資料			頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	年間来館者数	人	4926	/ 5500	5222	/ 5500	5420	/ 5500	/ 7000	7000	
			/		/		/		/		
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	年間資料貸出冊数	冊	14927	/ 15000	16231	/ 15000	16143	/ 15000	/ 17000	17000	
		単位あたりコスト	0.1		0.1		0.2				
			/		41 /		/		/	三和分館運営事業	
		単位あたりコスト									

三和分館運営事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・幼児から低学年向けの三和分館独自のミニ貸出セットを作成し、気軽に借りられる取組を行った。 ・小学生向けの取組として、夏休み自由研究お助け隊を実施。 ・「本の処方箋」では、処方箋に見立てた袋に気分に応じた小説と絵本をセットにしたテーマの本の貸し出しを行い、親子でも楽しむことができた。 ・分館は地域の文化振興や生涯学習の支援地域に密着した資料の収集とその保存のために必要不可欠である。特に高齢化が進む中、地域の図書館としての存在意義は高い。	☐ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・地域の防災無線や三和地域協議会広報誌を活用し、図書館イベントや新刊案内など、地域住民への広報を効率よく行っている。 ・子育て支援センター・三和地域公民館・三和地域協議会・三和学園・放課後児童クラブ等と連携した取組を行った。 ・身近な疑問や質問に答える質問ボックスを設置し、自然科学協力員の協力のもと質問に返信している。	☒ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・三和分館独自の取組として、三和地域協議会共催のブックカフェを実施し、新たな利用者の獲得に努めた。 ・2年連続で活動実績が最終目標を上回っており、目標値の見直しをおこなった。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	・絵本に特化した図書館として、子育て世代をターゲットとしているが、新型コロナウイルス感染症の影響や子どもの数が減少しており、イベント等参加者が集まりにくい現状がある。新たなイベントを開催し、新規利用者の確保に取組んでいるところであり、子どもだけでなく大人も一緒に楽しめる取組を実施していく必要がある。 ・三和地域協議会共催のブックカフェでは利用者に向けての本の展示やおすすめ本を紹介し、新規利用者の獲得につながる取組となった。 ・雑誌スポンサー制度において、三和地域協議会の広報誌にスポンサー募集記事を掲載し、新規スポンサーを獲得した。地元スポンサーを増やすため、地元企業へ呼びかけていく必要がある。		
改 善 策	・少子高齢化が進む中、子どもも大人も一緒に楽しめるイベントを開催する。 ・すべての人が本との出会いの提供の場のひとつとして、身の回りにある不思議に気付き、発見の楽しさを体験する新企画「わくわくスタディ」を実施予定。令和5年度は自然科学協力員の協力のもと、自然科学講座を開催する。 ・好評であった、地域協議会共催のブックカフェを回数を増やして実施する。 ・読書ボランティア活動支援事業の見直しにより、三和地域で読みみかせをしたことがないボランティアなどを派遣することにより、はじめての内容のおはなし会の開催や、放課後児童クラブ、子育て支援センター等での出張おはなし会を積極的に行っていく。 ・公民館や地域協議会や地元ボランティアとの連携を深め、独自の取組を行っていく。 ・新しい情報をより多く提供するため、雑誌スポンサーへの企業訪問を行い、雑誌の蔵書を増やす。 ・図書館へ来れない人のために、移動図書館や貸出セットを地域の広報誌を通じて周知を行っているが、具体的に利用につながる取組を関係機関と実施していく。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☒ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	人件費が職員課に移管され、各分館事業の事業費規模が小さくなったことを受け、「630302中央館運営事業」「630303三和分館運営事業」「630304夜久野分館運営事業」「630305大江分館運営事業」の4事業を統合し、「630349図書館運営事業」に名称を変更する。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持	☒ 廃止／休止	☐ 予算拡充	☐ 予算縮減
	☐ 他事業を統合	(統合事業名:)	☐ 他事業へ統合	(統合先事業名: 図書館運営事業)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	夜久野分館運営事業										事業コード	630304			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60050000 教育委員会 図書館						所属長	山路 智子						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	03 図書館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	260	頁
計画期間	開始年度	平成18年度		終了予定年度	令和7年度		関連計画名	第3次福知山市子どもの読書活動推進計画				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	図書館法、福知山市立図書館条例														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☒ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、利用者に提供し、その教育、調査、研究、レクリエーション等に資することを目的として設置している公立図書館として、それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場とする						
対象者	福知山市民(在住、在学、在勤)・三たん地域在住者			対象者数	650,085	単位あたりコスト	0.0
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)						
予算情報	① 当初予算	3,643		4,063		210		0						
	② 補正予算	0		0		0		0						
	③ 繰越予算	0		0		0		0						
	前年度繰越	0		0		0								
	次年度繰越	0		0										
小計(①～③)		3,643		4,063		210		0						
予算財源内訳	① 一般財源	3,643		4,063		210		0						
	② 国支出金	0		0		0		0						
	③ 府支出金	0		0		0		0						
	④ 地方債	0		0		0		0						
	⑤ その他特財	0		0		0		0						
決算情報	① 流充用額	162		182										
	② 配当予算	3,805		4,245										
	③ 執行額	3,786		4,212										
	④ 執行率	99.5%		99.2%										
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.10	/	0.75	0.10	/	0.75			/				
	② 概算人件費	2,675		2,675										
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		6,461		6,887										
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称			種類			実績金額			決算附属資料			頁

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	年間来館者数	人	8148	/	14500	8197	/	14500	8118	/	11000
			/		/		/		/		
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	年間資料貸出冊数	冊	20457	/	26000	20117	/	26000	19926	/	24000
		単位あたりコスト	0.2		0.2		0.2				
			/		43 /		/		/		夜久野分館運営事業
		単位あたりコスト									

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	公立図書館は、図書館法に規定された利用者の教育と文化の発展に寄与することを目的として設置している社会教育施設であり、その必要性は高い。 また、利用に対するいかなる対価も徴収してはならないと規定されている公立図書館が果たす社会的役割は大きく、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、利用者の教養、調査研究、レクリエーション等に資するための施設として、政策目標である「それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり」の取組を進めるべく運営に取組んでいる。	☐ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	公立図書館は、その利用者に対価を求めることを前提としない社会教育施設であり、受益負担の概念にはなじまない。 ただし、限られた予算の中で必要な又は必要とされる資料を収集するため、本来定価である図書の入札契約による購入、分館や市外その他館との相互貸借の取組により、コストの削減や効率化に向けて取組んでいる。 分館と中央館との間での資料相互活用による有効活用の取組の強化に取組んでいる。	☒ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	令和4年度は、長期化した新型コロナウイルス感染症の影響もあり、来館者数・貸出冊数とも前年を下回っている。 新年特別企画である「本の福袋」の貸出しや公民館まつりでのリサイクル市の実施など、地域住民に興味を持ってもらえるよう、分館独自の取組を実施している。 ボランティア団体の協力を得て「おはなし会スペシャル」や「大人のためのおはなし会」を実施している。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	地域の情報収集や知識習得の場として、夜久野分館は欠かせないものであり、今後も引き続き、分館の特色を生かした図書館づくりを進めるとともに、利用者にとってよりよい図書館となるよう、利用者ニーズを把握し、それに応えていくことが大切であると考え。また、新型コロナウイルス感染症の流行により、減少した来館者数や貸出冊数を回復していくことが課題である。		
改 善 策	夜久野分館独自のイベントである「本の福袋」や「大人のためのおはなし会」は好評であり、一定の集客効果が得られているため継続実施する。利用者の興味を引きつけるための特集展示を行うなど、地域住民に寄り添った図書館として、より多くの利用者に来館いただき、利用者の読書活動の推進が図れるよう努める。また、来館者数や貸出冊数を回復させるため、図書館ホームページにおいて各月の特集展示コーナーの紹介の充実や、おはなし会の参加人数制限の緩和など、来館しやすさ、来館したいと思われるような取組を進める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☒ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	人件費が職員課に移管され、各分館事業の事業費規模が小さくなったことを受け、「630302中央館運営事業」「630303三和分館運営事業」「630304夜久野分館運営事業」「630305大江分館運営事業」の4事業を統合し、「630349図書館運営事業」に名称を変更する。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☒ 廃止／休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名: 図書館運営事業)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

事業属性

事業名	大江分館運営事業										事業コード	630305			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60050000 教育委員会 図書館						所属長	山路 智子						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	03 図書館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	260	頁
計画期間	開始年度	平成18年度		終了予定年度	令和7年度		関連計画名	第3次福知山市子どもの読書活動推進計画				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	図書館法、福知山市立図書館条例														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☒ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	市民が生涯にわたって行う様々な学習活動を支援するため、豊富な資料や情報の収集を行い、市民がいつでも、どこでも求める資料と情報が得られるよう図書館機能の充実を図るとともに、市民の自主的、自発的な学習活動を支援する学びの場の提供に努める。						
対象者	福知山市民(在住、在学、在勤)・三たん地域在住者			対象者数	650,085	単位あたりコスト	0.0
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)						
予算情報	① 当初予算	2,119		2,427		250		0						
	② 補正予算	0		0		0		0						
	③ 繰越予算	0		0		0		0						
	前年度繰越	0		0		0								
	次年度繰越	0		0										
小計(①～③)		2,119		2,427		250		0						
予算財源内訳	① 一般財源	2,119		2,427		250		0						
	② 国支出金	0		0		0		0						
	③ 府支出金	0		0		0		0						
	④ 地方債	0		0		0		0						
	⑤ その他特財	0		0		0		0						
決算情報	① 流充用額	68		48										
	② 配当予算	2,187		2,475										
	③ 執行額	2,152		2,418										
	④ 執行率	98.4%		97.7%										
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.14	/	0.75	0.14	/	0.75	/						
	② 概算人件費	2,995		2,995										
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		5,147		5,413										
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称			種類			実績金額			決算附属資料			頁

業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	年間来館者数	人	5469	/ 7700	5476	/ 7700	5888	/ 7700	/ 6000	6000	
			/		/		/		/		
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	年間資料貸出冊数	冊	19245	/ 20000	17929	/ 20000	17784	/ 20000	/ 18000	18000	
		単位あたりコスト	0.1		0.1		0.1				
			/		45 /		/		/	大江分館運営事業	
		単位あたりコスト									

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	分館は地域の文化振興や生涯学習等の支援や地域に密着した資料の収集とその保存のために必要不可欠な場である。特に高齢化が進む中、地域の図書館として分館の存在意義は高い。	☐ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	嘱託1名、臨時3名の実質4名で年間267日開館業務を行い、図書の選書、発注、受入、企画展示、おはなし会の開催等多岐にわたる業務を行っている。設置されている機器も図書館システムパソコン1台、インターネット検索パソコン1台、複写サービス用のコピー機1台と必要最小限となっている。中央館との連携により、所蔵資料の少なさをカバーし、地域に根差した図書館サービスを展開している。	☒ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	新型コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、来館者数は増加しているが、貸出冊数は減少している。 浸水被害対策のため、平成31年4月に大江町総合会館2階に移転しリニューアルオープンをして以降、手狭で書架も充分にない状況であったが、廃校の図書室の使われなくなった書架を有効活用するなど、図書館機能の強化に努めた。大江分館は所蔵資料も少なく、レファレンスも簡易なものに限られるが、大江町地域の知の拠点、特に「鬼」に関する資料には力を入れて、特色を活かした図書館づくりを進めている。	
定性的な面も含めた自己評価 及び現状の課題	平成30年度に浸水被害を被り、翌年度から2階に場所を移し、浸水の恐れはなくなったが、以前よりも手狭で書架も充分ではない中で、廃校の図書室から使われなくなった書架を運んで配架スペースを充実させた。以前は机の上に並べられていた本を書架に並べることができ、蔵書数が増え、図書をさがしやすくなるなど、図書館機能が強化された。しかし、大江分館は手狭でスペースも限られており、所蔵資料は少なく、レファレンスも簡易なものに限られる。地域の情報収集や知識習得の場として、大江分館は欠かせないものであり、これまで以上に分館の特色を活かした図書館づくりを進めるとともに、利用者にとってよりよい図書館となるよう、利用者ニーズに応じていくことが大切であると考え。		
改 善 策	より多くの利用者に来館いただくために、特集展示やそれに合わせた情報発信など、見せ方などを工夫する必要がある。他部署や各種団体と連携して各種イベント等に出向くなど、これまで以上に分館の特色を活かした図書館づくりなど、分館の利用促進に向けたPRを強化し、読書活動の推進を図る。 具体的には、他部署や各種団体と連携した企画展示や毎月1回のおはなし会の開催、図書のリサイクル市など地域イベントへの参加、図書館利用者の声を反映させた蔵書構成などにより分館の魅力を高め、図書館HPや広報による情報発信を積極的に行う。 他の図書館と比べて小学生の利用が少ないため、小学生が興味を持つような図書の補充、読書意欲をそそするような取組を行いたい。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☒ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	人件費が職員課に移管され、各分館事業の事業費規模が小さくなったことを受け、「630302中央館運営事業」「630303三和分館運営事業」「630304夜久野分館運営事業」「630305大江分館運営事業」の4事業を統合し、「630349図書館運営事業」に名称を変更する。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☒ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名: 図書館運営事業)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

事業属性

事業名	佐藤八重子記念子ども読書活動支援事業										事業コード	630308			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60050000 教育委員会 図書館						所属長	山路 智子						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	03 図書館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	260・262	頁
計画期間	開始年度	平成6年度		終了予定年度	令和7年度		関連計画名	第3次福知山市子どもの読書活動推進計画				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	図書館法、子どもの読書活動の推進に係る法律(平成13年12月12日 法律第154号)														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (														

事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	読書活動の普及・図書館活動への理解と利用促進につなげるため、講座・講演会・研修会等の事業を実施することで、すべての市民に読書の楽しみを届け、学習機会を提供する。具体的には、図書館読書ボランティアと連携しながら、出張おはなし会やワークショップ、大人向けの読み聞かせについての講演会や研修会などを開催する。					
対象者	乳児から大人まで		対象者数	77,000	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☒ 直接実施 ☐ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	1,255		1,192		1,225		1,848				
	② 補正予算	0		0		0		0				
	③ 繰越予算	0		0		0		0				
	前年度繰越	0		0		0						
	次年度繰越	0		0								
小計(①～③)		1,255		1,192		1,225		1,848				
予算財源内訳	① 一般財源	127		80		48		64				
	② 国支出金	0		0		0		0				
	③ 府支出金	0		0		0		0				
	④ 地方債	0		0		0		0				
	⑤ その他特財	1,128		1,112		1,177		1,784				
決算情報	① 流充用額	0		△ 41								
	② 配当予算	1,255		1,151								
	③ 執行額	719		849								
	④ 執行率	57.3%		73.8%								
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.60	/	1.05	0.74	/	1.09	/				
	② 概算人件費	7,425		8,645								
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		8,144		9,494								
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	佐藤八重子記念子ども読書活動振興事業基金繰入(佐藤八重子記念子ども読書活動振興基金)			種類	基金繰入金		794		40	頁
							実績金額					
							決算附属資料					

業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績／目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	保護者による10か月児への読みかせ実施率	%	— / 90		— / 90		— / 90		/ 90		90%以上
	図書館の児童書・絵本貸出冊数	冊	270776 / 349574		258255 / 284315		273709 / 271168		/ 287394		前年比5%増
活動実績 (アウトプット) 実績／計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	おはなし会等実施回数	回	54 / 180		57 / 180		90 / 180		/ 180		180
		単位あたりコスト	12.2		12.6		9.4				
			/		47 /		/		佐藤八重子記念子ども読書活動支援事業		
		単位あたりコスト									

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・すべての人が本と出会い、読書を楽しめるよう、子どもだけでなく、シニアや各世代に向けての取り組みが必要である。 ・非来館型のサービスとして貸出セット、電子図書館などの利用促進を図る。 ・ブックスタートにおける乳幼児期の読みかせは言葉の発達や情緒の安定など子どもの成長に重要であり、健診時の集団での読みかせ、ブックスタート読みかせ体験を実施した。 ・コロナ禍により休止していた、対面読書サービス・朗読会・バリアフリー上映会を再開し、障害のある方に対しての読書の取組を行った。 ・朗読会は、ボランティア自ら実施する事業で、大人向けの朗読として実施いただいていた ・読書ボランティア等との連携協力により、図書館や学校、地域等で読みかせを実施。図書館職員が地域へ出向かなくても読書ボランティアの活動が広がっている。 ・ボランティア向けの研修会や講演会を開催することで、ボランティアの育成や新規ボランティア登録につながっている。 ・ボランティア主催の大人向けの朗読会は、自主的な活動として取り組まれている。 ・第3次子どもの読書活動推進計画にもとづき、図書館職員による、オリジナルのブックリストを作成した。 ・おはなし会の実施回数を減らし、定員を増加させることで効率化を図る。また、関係機関との連携により、定期的な出張おはなし会を開催することで、図書館へ来なくても読書を楽しむことができる。令和4年度も前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、制限を行ってのイベントの実施となったが、おはなし会のスタンプカードの作成や定員数の増加により、参加者が増加傾向にある。 ・新しくオープンした子育て拠点施設で出張おはなし会を実施するなど、関係機関と連携を図りながら、子育て支援や読書の推進につなげることができた。 ・出張おはなし会や講演会、研修会等で貸出セットや電子図書館等、読書支援サービスについて周知啓発を行うことで、利用促進につながっている。 ・関係機関に読書支援サービスについてアンケートを実施し、分析・見直しを行った。 ・保護者による10か月児への読みかせアンケートをコロナ禍により休止していたが、令和4年度も前年度に引き続き、実施した。アンケートの結果、利用促進につながることができた。	☐ 高い ☒ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・おはなし会の定員数を増加し、スタンプカードを作成して、中央館、各分館のおはなし会に参加してもらいやすい取組を行い、リピーターを増やすことができた。 ・読書ボランティアとより深く連携を図っていくため、ボランティア活動支援事業についての見直しを行う必要がある。 ・ブックスタート事業は、令和3年度に引き続き、感染症防止のため、4か月健診時のボランティアによる個別での読み聞かせが実施できなかったが、図書館職員による集団での読み聞かせと、ボランティアによる読み聞かせ体験を実施することで、乳幼児期の保護者への取組を途切れることなく実施できた。 ・「暮らしに読書を、おうえん」貸出セットの活用について、シニア向けのおはなし会で貸出セットの周知を行うことで利用が増加しており、図書館の蔵書から新たなセットを作成した。児童向けの貸出セットの利用が少ないため、放課後児童クラブ指導員研修会や学校司書研修会、各小中学校へ周知を行い、利用方法についてアンケート調査を実施し、課題を洗い出すことができた。 ・図書館職員によるオリジナルのブックリストをテーマに応じた図書の貸出、授業やイベント等で活用できるよう周知していく必要がある。 ・対面読書サービスを再開したが利用申込がないため、関係団体等に積極的に周知していく必要がある。	
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・おはなし会の定員数を増加し、スタンプカードを作成して、中央館、各分館のおはなし会に参加してもらいやすい取組を行い、リピーターを増やすことができた。 ・読書ボランティアとより深く連携を図っていくため、ボランティア活動支援事業についての見直しを行う必要がある。 ・ブックスタート事業は、令和3年度に引き続き、感染症防止のため、4か月健診時のボランティアによる個別での読み聞かせが実施できなかったが、図書館職員による集団での読み聞かせと、ボランティアによる読み聞かせ体験を実施することで、乳幼児期の保護者への取組を途切れることなく実施できた。 ・「暮らしに読書を、おうえん」貸出セットの活用について、シニア向けのおはなし会で貸出セットの周知を行うことで利用が増加しており、図書館の蔵書から新たなセットを作成した。児童向けの貸出セットの利用が少ないため、放課後児童クラブ指導員研修会や学校司書研修会、各小中学校へ周知を行い、利用方法についてアンケート調査を実施し、課題を洗い出すことができた。 ・図書館職員によるオリジナルのブックリストをテーマに応じた図書の貸出、授業やイベント等で活用できるよう周知していく必要がある。 ・対面読書サービスを再開したが利用申込がないため、関係団体等に積極的に周知していく必要がある。	
定性的な面も含めた自己評価 及び現状の課題		・おはなし会の定員数を増加し、スタンプカードを作成して、中央館、各分館のおはなし会に参加してもらいやすい取組を行い、リピーターを増やすことができた。 ・読書ボランティアとより深く連携を図っていくため、ボランティア活動支援事業についての見直しを行う必要がある。 ・ブックスタート事業は、令和3年度に引き続き、感染症防止のため、4か月健診時のボランティアによる個別での読み聞かせが実施できなかったが、図書館職員による集団での読み聞かせと、ボランティアによる読み聞かせ体験を実施することで、乳幼児期の保護者への取組を途切れることなく実施できた。 ・「暮らしに読書を、おうえん」貸出セットの活用について、シニア向けのおはなし会で貸出セットの周知を行うことで利用が増加しており、図書館の蔵書から新たなセットを作成した。児童向けの貸出セットの利用が少ないため、放課後児童クラブ指導員研修会や学校司書研修会、各小中学校へ周知を行い、利用方法についてアンケート調査を実施し、課題を洗い出すことができた。 ・図書館職員によるオリジナルのブックリストをテーマに応じた図書の貸出、授業やイベント等で活用できるよう周知していく必要がある。 ・対面読書サービスを再開したが利用申込がないため、関係団体等に積極的に周知していく必要がある。	
改 善 策		・ボランティア活動支援事業の見直しを行い、すべての読書ボランティアを登録制とし、図書館事業に係る活動を行っていただき、活動支援として図書カードを交付し、また読書ボランティアが図書館研修室を利用できるための細則を新設した。 ・図書館のおはなし会の内容を見直し、休日のおはなし会や出張おはなし会等をボランティアに協力を得ることで効率化を図り、これまで出張へ行っていなかった地域や施設、回数の少なかった大人向けなど、さまざまな場所で本との出会いを提供していく。 ・ブックスタート事業では、健診時に集団での読み聞かせを図書館職員が行っていたが、ボランティアが行うことで効率化を図っていく。 ・貸出セットの活用について、関係機関へアンケート結果から、セット数を増やし、1セット50冊から25冊のミニセットの作成、セット内容が具体的にわかるリストの作成、特別拡大貸出ができる内容へ見直しを行い、利用者に対して、より細かいニーズに応じたサービスの提供を行っていく。 ・貸出セットの見直し内容、新たに作成した図書館職員によるオリジナルブックリストの活用について、学校や放課後児童クラブ、児童館等関係機関の担当者に直接周知し、読書支援につなげていく。 ・対面読書サービスの新たなサービスとして、自宅にいてもサービスを受けることができるように、オンラインでの対面読書サービスを開始する。 ・オンラインでの対面読書サービスは、広く周知するとともに、関係団体等にターゲットをしぼって直接届くようにしていく。	

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	図書館読書ボランティアに多くの方に登録いただいた。大人向けの朗読ボランティアの登録が多数あり、大人向けの朗読会のニーズもある。定期的な大人向け朗読会の開催など、すべての世代に向けた取り組みを行う。 作家や人形劇団を招致し、開館10周年記念イベントとして取り組み、読書活動の普及、充実に努める。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☒ 予算縮減
	☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	図書館システム機器等更新事業										事業コード	630314			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所属	60050000 教育委員会 図書館						所属長	山路 智子						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	03 図書館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	262	頁
計画期間	開始年度	令和3年度		終了予定年度	令和5年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中	
根拠法令等	図書館法、福知山市立図書館条例														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	市民が生涯にわたって行う様々な学習活動を支援するためには、豊富な資料や情報の収集に加え、市民への適切な提供の場が必要である。市民がいつでも、どこでも求める資料と情報が得られるよう、図書館の業務全般に対応する図書館システムの整備・充実を図る。 図書館内に設置している機器は、故障時に必要な部品調達が難しくなっており、定期的な機器の更新を行うことで、図書館利用者に対する安定的なサービスの提供を行う。具体的には、セキュリティゲートや自動貸出機、図書館システム端末及び周辺機器を更新し、システムトラブルなく図書館運営が円滑に行える体制を整える。						
対象者	福知山市民(在住、在学、在勤)・三たん地域在住者			対象者数	650,085	単位あたりコスト	0.1
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (						

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)	
予算情報	① 当初予算	6,604		32,251		18,700		31,359	
	② 補正予算	0		0		0		0	
	③ 繰越予算	0		0		0		0	
	前年度繰越	0		0		0			
	次年度繰越	0		0					
	小計(①～③)	6,604		32,251		18,700		31,359	
予算財源内訳	① 一般財源	6,604		0		0		0	
	② 国支出金	0		0		0		0	
	③ 府支出金	0		0		0		0	
	④ 地方債	0		0		0		0	
	⑤ その他特財	0		32,251		18,700		31,359	
決算情報	① 流充用額	△ 334		0					
	② 配当予算	6,270		32,251					
	③ 執行額	5,161		31,490					
	④ 執行率	82.3%		97.6%					
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.15	/	0.05	0.28	/	0.10	/	
	② 概算人件費	1,325		2,490					
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		6,486		33,980					
主な利用特財 (N-1年度実績値)	特財名称	図書館システム機器等更新事業基金繰入(ふるさと納税基金)			基金繰入金	31,489		42	頁
						実績金額		決算附属資料	

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	更新作業に伴う障害発生件数	回	0	/	0	0	/	0	/	0	0
			/		/		/		/		
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	システム機器の更新	台	0	/	0	9	/	89	39	/	89
	単位あたりコスト		0.0		573.4		807.4				
	単位あたりコスト		/		49		/		図書館システム機器等更新事業		

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	市民が生涯にわたって行う様々な学習活動を支援するためには、豊富な資料や情報収集に加え、市民への適切な提供の場として図書館の必要性は高まっている。 図書館システム及び自動化書庫は、あらゆる図書館業務で利用されており、システムが使えなくなることは図書館運営自体が停止することになり、利用者に多大な迷惑をかけることとなる。 図書館運営の根幹となるシステムの安定化は最優先で取り組む必要がある。	☐ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	機器設定業務はシステムベンダーでないと履行できないため、随意契約としたが、庁内アドバイザーから意見を聴き、業務内容を精査して、必要最小限の経費となるよう相手方と交渉してコスト削減を図った。 ICゲートと関連機器の更新業務にあわせて、システム周辺機器の購入と設定作業を一括で行うことで、機器の保守管理を含め、費用を抑えることができた。また、全ての作業を蔵書点検に伴う定例の休館日に行うことで、図書館利用者に安定的にサービスの提供が行えた。	☒ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	事業目的は予定通り履行されており、更新作業に伴う障害発生もなく、成果目標も実績も適切であると考ええる。	
定性的な面も含めた自己評価及び現状の課題	セキュリティゲートの保守サービスが2023年3月に完全終了するため、セキュリティゲートを新たに設置するとともに、5年の保守期間を既に経過した自動貸出機の更新を行った。また、自動化書庫の機器の部品を計画的に交換することにより、自動化書庫の長寿命化を図った。 全ての工事を定例の図書館休館日に行うことで、図書館利用者に安定的にサービスを提供できた。 これにより、本市図書館中央館ではICタグの導入による自動貸出機と貸出処理できていない資料の館外への持ち出しを光と音声で伝えるセキュリティゲート、自動化書庫などの先進的な図書館サービスを継続させることができた。さらにWebOPACのバージョンアップも行い、アクセスビリティが向上し、画面が見やすく操作しやすいものになった。		
改 善 策	計画的に図書館システム機器の更新を行うべく、3ヵ年計画により対応していく。 図書館利用者に安定的にサービスを提供するため、できるだけ図書館休館日に工事を実施する。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の事業の見直し及び予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	引き続き、図書館システムにかかる機器の更新に努める。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☒ 予算拡充 ☐ 予算縮減
	☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	図書館電子書籍貸出サービス事業										事業コード	630316			
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり						
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422				
事業担当	所 属	60050000 教育委員会 図書館						所属長	山路 智子						
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	03 図書館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	262	頁
計画期間	開始年度	令和3年度		終了予定年度	令和7年度		関連計画名	第3次福知山市子どもの読書活動推進計画					R5現在の状況	継続中	
根拠法令等	図書館法、福知山市立図書館条例														
事業区分	☐ 法定受託事務 ☒ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務的事业 ☐ その他 (														

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	図書館サービスの更なる利便性向上と「withコロナ」の時代における新しい生活様式に対応するため、24時間いつでもどこでも利用できる電子書籍貸出サービスを導入し、学校の休校時、外出抑制時における児童生徒の読書環境を整え、学びを支援すること、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」を遵守し、身体的に来館や読書が困難である方への図書館サービスを拡大すること、非来館型サービスの充実を図ることにより、来館型と非来館型の併用によるハイブリッド図書館による多様な選択肢の確保と利便性の向上を目指すものである。					
対象者	福知山市民(在住、在学、在勤)		対象者数	85,000	単位あたりコスト	0.4
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (					

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)				
予算情報	① 当初予算	0		24,540		27,854		27,854				
	② 補正予算	30,635		0		0		0				
	③ 繰越予算	0		0		0		0				
	前年度繰越	0		0		0						
	次年度繰越	0		0								
小計(①～③)		30,635		24,540		27,854		27,854				
予算財源内訳	① 一般財源	0		0		0		0				
	② 国支出金	0		24,540		0		0				
	③ 府支出金	0		0		0		0				
	④ 地方債	0		0		0		0				
	⑤ その他特財	30,635		0		27,854		27,854				
決算情報	① 流充用額	0		0								
	② 配当予算	30,635		24,540								
	③ 執行額	30,590		24,479								
	④ 執行率	99.9%		99.8%								
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.63	/	0.40	0.62	/	0.43			/		
	② 概算人件費	6,040		6,035								
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		36,630		30,514								
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	図書館電子書籍貸出サービス事業(子育てにやさしいまちづくりモデル事業交付金)			種類	教育費府補助金		14,333		32	頁
							実績金額			決算附属資料		

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	年間電子書籍貸出数	点	0	/	0	57368	/	180000	184237	/	180000
	年間電子図書館閲覧数	回	0	/	0	128512	/	360000	368006	/	360000
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2		R3		R4		R5		最終目標
	電子書籍コンテンツ数	点	0	/	0	20918	/	24000	25925	/	24000
	単位あたりコスト		0.0		1.5		0.9				
	単位あたりコスト		/		51		/				

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	本市が実施した「スマートシティ推進に向けた市民アンケート調査」で、「電子図書館の整備」は実施してほしいサービス13位／50位となっており、電子図書館サービスの導入は市民満足度の向上につながっている。また、同じ電子図書館サービスを導入した全国279図書館のなかで、人口千人あたりの貸出数と閲覧数の両方で1位となるなど、多くの市民に利用いただいている。	☐ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	電子書籍貸出サービス導入のコンセプトは、リアルな紙の本と電子書籍の両方を充実させた「ハイブリッド図書館」による多様な選択肢の確保と利便性の向上を目指すものである。そのため、新たに購入する電子書籍は、既存の紙の本と相互連携させる必要があり、それができる業者が限定される。	☒ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	図書館サービスの更なる利便性の向上と「withコロナ」の時代における新しい生活様式に対応するため、電子書籍貸出サービスの継続は必要と考える。また、読書は想像力が身に付き、心も豊かになるため、市内の小中学生約6千人に利用に必要なID・パスワードを付与したことにより、特に小中学生の利用が多くあることは、児童の活字離れの抑止に効果が出ていると考える。	
定性的な面も含めた自己評価 及び現状の課題	令和4年1月20日にサービスを開始した電子書籍貸出サービスについては、窓口において利用方法の質問が多くあったことを受け、令和4年5月から7月には電子図書館の使い方講座を開催した。また、市他部署の取組とコラボした電子図書館内の特集展示の実施や、夏のDigi田甲子園の実装部門でふくちやま電子図書館の取組みが京都府代表に選ばれ、内閣府特命担当大臣の視察を受けた。令和5年1月で1周年を迎え、より多くの方に電子図書館をご利用いただけるよう、期間限定お試しIDの発行やふくちやま電子図書館の体験会の実施、電子図書館内に電子書籍貸出ランキングの掲載など1周年のキャンペーンを実施した。そうした中、TRCの提供する電子図書館サービスを導入した全国279図書館のなかで、人口千人あたりの貸出数と閲覧数の両方で1位となるなど、多くの方にご利用いただけた。		
改 善 策	電子図書館をより多くの方にご利用いただけるよう、館内利用者や市内事業所、障害者団体などに積極的に広報活動を行う。 電子書籍コンテンツ数を増やすとともに、電子図書館での特集企画を毎月ごとに展開してPRを進める。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換 ☐ 廃止／休止 ☒ 事業の見直しなし	本年は全国で最も利用された電子図書館として脚光を浴びた。引き続き、魅力的な電子図書館を運営できるように努めたい。

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☐ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☒ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---

福知山市 令和5年度事務事業評価シート

(単位：千円)

I 事業属性

事業名	三和分館移転改修事業										事業コード	630317				
政策体系	基本政策	4 市民一人ひとりが、いつからでも何歳でも、自分らしく学びを深められるまち						政策目標	2 それぞれの人に適した、生涯を通じた学びの場づくり							
	施 策 名	2 公民館や図書館を生かした学びの場づくり								施策コード	422					
事業担当	所属	60050000 教育委員会 図書館						所属長	山路 智子							
会計情報	款	10 教育費		項	05 社会教育費		目	03 図書館費		会計	01 一般会計		決算附属資料	262		頁
計画期間	開始年度	令和4年度		終了予定年度	令和5年度		関連計画名	-				R5現在の状況		継続中		
根拠法令等	-															
事業区分	☐ 法定受託事務 ☐ 国府補助事業 ☒ 市単独事業 ☐ 内部庶務の事業 ☐ その他 (															

II 事業基礎情報

事業目的 (施策実現に向けて 事業が果たす役割)	～子育てにやさしい図書館をめざして～ 三和支所改修工事の中で、SDGsに対応した、照明のLED化、トイレの改修、授乳室の新設、支所2階ロビーのフリースペースとしての活用等、支所周辺に点在する施設を集約し、住民の利便性をより高め「住み続けることができるまちづくり」を行うため、支所2階に移転し、施設の有効利用を図る。 新図書館は「子育てにやさしい図書館をめざして」をコンセプトに、関係機関と連携をはかりながら「教育と福祉の拠点」施設として支所が機能し、人と人とがつながり、子どもたちが集い、地域の方の居場所となるような読書支援サービスを行う。										
対象者	福知山市民(在住、在学、在勤)・三たん地域在住者					対象者数	650,085		単位あたりコスト	0.0	
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 業務委託 ☐ 指定管理 ☐ 補助金交付 ☐ その他 (										

III 予算執行状況

区 分		R3(評価前年度)		R4(評価年度)		R5(本年度)		R6(要求年度)			
予算情報	① 当初予算	0		62,826		2,364		0			
	② 補正予算	0		0		0		0			
	③ 繰越予算	0		△ 39,270		39,270		0			
		前年度繰越	0		0		39,270				
		次年度繰越	0		△ 39,270						
小計(①～③)		0		23,556		41,634		0			
予算財源内訳	① 一般財源	0		656		1,434		0			
	② 国支出金	0		0		0		0			
	③ 府支出金	0		0		0		0			
	④ 地方債	0		21,900		39,200		0			
	⑤ その他特財	0		1,000		1,000		0			
決算情報	① 流充用額	0		0							
	② 配当予算	0		23,556							
	③ 執行額	0		23,187							
	④ 執行率	0.0%		98.4%							
人概工算	① 従事職員数 (正職員 / 非常勤嘱託職員)	0.00	/	0.00	0.32	/	0.12	/			
	② 概算人件費	0		2,860							
トータルコスト (予算執行額+概算人件費)		0		26,047							
主な利用特財 (N-1年度実績値)		特財名称	三和分館移転改修事業(過疎対策)		種類	教育債		21,800		56	頁
			三和分館移転改修事業基金繰入(ふるさと納税基金)			基金繰入金		1,000			
						実績金額				決算附属資料	42

IV 業績指標

成果実績 (アウトカム) 実績/目標	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	三和支所への移転	式	/	/	0 / 1	/ 1	1
			/	/	/	/	
活動実績 (アウトプット) 実績/計画	指 標	単位	R2	R3	R4	R5	最終目標
	移転開館イベント・展示の実施	回	/	/	0 / 2	/ 2	2
	単位あたりコスト						
	単位あたりコスト		/	53 /	/	/	三和分館移転改修事業

V 一次評価(事業担当所属内による自己評価)

項 目	評価の観点	評価の観点に寄与した取組事項	施策・施策成果指標 に対する貢献度
必 要 性	・市民や社会のニーズを的確に捉えた事業か ・民間事業者や市民が自ら実施することのできない事業か ・目的・目標の達成手段として適切で、優先度の高い事業か	・三和支所が教育と福祉の拠点施設として施設の集約を行う中、教育の拠点となる施設の集約を行う。	☒ 高い
効 率 性	・受益者との負担関係や単位あたりコストは妥当な水準か ・他の手段や方法とのコスト比較は十分行われているか ・コスト削減や効率化に向けた工夫が施されているか	・三和支所改修工事と合わせて工事発注し、支所周辺に点在する施設を集約することで、住民の利便性をより高める。	☐ やや高い ☐ やや低い ☐ 低い
有 効 性	・成果目標は理にかなない、実績は適切に把握・測定されているか ・活動実績は見込みに沿い、かつ投入資源に見合っているか ・先行事例の分析や外部資源の活用は十分行われたか	・子育てにやさしい図書館をめざして、産屋の里にちなみ、子どもの健やかな成長を願い、地域の特性を活かした図書館として、絵本・児童書を中心とした図書の選書を行った。	
定性的な面も含めた自己評価 及び現状の課題	令和3年12月に予定していた三和支所庁舎改修工事に伴う設計業務の入札が不調となり、再入札が令和4年2月になったことにより設計業務着手に遅延が生じ、工事着手が工事請負仮契約の締結から12月議会提案後の令和5年1月の契約となった。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、必要な設備関係資材の調達に時間を要する見込みであり、適正な工事期間を確保するため、令和5年度に繰り越すことになった。		
改 善 策	令和6年1月のオープンをめざす。 三和分館移転改修工事完了後、オープニングセレモニーを開催し、教育の拠点施設として関係機関と連携しながら、子どもから大人まで参加できる講座の新設、地元のイベントでの図書の紹介、出張おはなし会、移動図書館車の運行、貸出セットの活用等、図書館に来なくても読書に親しむことのできる図書館サービスの充実を図る。 また、産屋の里にちなみ、子どもの健やかな成長を願い、地域の特性を活かした図書館として、絵本・児童書の購入、キッズスペース拡充のための備品購入を行う。		

VI 二次評価(事業所属外による他部署評価)

事後評価コメント	事業評価実施後に記載(対象事業のみ)
----------	--------------------

VII 評価をふまえた次年度事業方針

担当課の 事業の見直し 及び 予算要求方針	方針区分	評価を踏まえた見直し内容
	☐ 事業の見直し ☐ 統合／組換え ☒ 廃止／休止 ☐ 事業の見直しなし	

VIII 予算反映結果

予算反映結果	☐ 現状維持 ☒ 廃止/休止 ☐ 予算拡充 ☐ 予算縮減 ☐ 他事業を統合 (統合事業名:) ☐ 他事業へ統合 (統合先事業名:)
--------	---